

外国語学部 中国学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	1学期	1	2	19
	休講	1年			
	家族を問う		1	2	20
	閉講	1年			
	人間と文化	1学期	1	2	23
	休講	1年			
	ことばの科学 (読替科目：ことばの科学)	1学期	1	2	24
	漆原 朗子	1年			
	国際学入門 (読替科目：国際学入門)	1学期	1	2	25
	伊野 憲治	1年			
	教養としての平和学		1	2	27
	閉講	1年			
	可能性としての歴史	2学期	2	2	21
	休講	2年			
	家族の再生		2	2	26
閉講	2年				
文化と政治 (読替科目：現代社会と文化)	2学期	2	2	27	
神原 ゆうこ	2年				
言語と認知 (読替科目：言語と認知)	1学期	2	2	21	
漆原 朗子 他	2年				
共生社会論 (読替科目：共生社会論)	2学期	2	2	27	
伊野 憲治	2年				
戦争と平和 (読替科目：戦争論)	2学期	2	2	21	
戸蒔 仁司	2年				
生活世界の哲学 (読替科目：生活世界の哲学)	1学期	1	2	26	
伊原木 大祐	1年				
共同体と身体 (読替科目：共同体と身体)	2学期	2	2	26	
伊原木 大祐	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目：メンタル・ヘルスI)	1学期	1	2	117
	寺田 千栄子	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目:メンタル・ヘルスII) 寺田 千栄子	2学期	1	2	118
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	119
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	120
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	121
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	122
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	123
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	124
		1年			
	自己管理論 (読替科目:自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	125
		1年			
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 眞鍋 和博	1学期	1	2	142	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	143	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	144	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目:コミュニケーション実践) 眞鍋 和博	2学期	1	2	145	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目:プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	146	
	2年				
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 (読替科目:法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	92	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査 (読替科目: 社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	93
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 閉講		1	2	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	126
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	127
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	128
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	129
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	130
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	131
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	132
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	133
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	134	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	135	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	136	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	137	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	138	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	139
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	140
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	141
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫 他	1学期	1	2	28
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 伊原木 大祐	1学期	1	2	29
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 稲月 正	1学期	1	2	30
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 日高 京子	1学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 石川 敬之	1学期	1	2	34
		1年			
教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	35	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 徳永 政夫 他	2学期	1	2	36	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	37	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 伊原木 大祐	2学期	1	2	38
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 稲月 正	2学期	1	2	39
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	40
		1年			
	教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習II (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	41
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 日高 京子	2学期	1	2	42
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 廣川 祐司	2学期	1	2	43
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 石川 敬之	2学期	1	2	44
		1年			
教養基礎演習II (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習II (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	45	
	1年				
教養演習AI (読替科目: 教養演習AI) 伊原木 大祐	1学期	2	2	46	
	2年				
教養演習AI (読替科目: 教養演習AI) 稲月 正	1学期	2	2	47	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI 徳永 政夫、高西 敏正	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) (読替科目: 教養演習AI (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	48	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 日高 京子	1学期	2	2	49
		2年			
	教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 石川 敬之	1学期	2	2	50
		2年			
	教養演習AⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目：教養演習AⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	2	2	51
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目：教養演習AⅡ) 伊原木 大祐	2学期	2	2	52
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目：教養演習AⅡ) 稲月 正	2学期	2	2	53
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目：教養演習AⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	2	2	54
		2年			
	教養演習AⅡ 小林 道彦	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ 徳永 政夫、高西 敏正	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ(防衛セミナー) (読替科目：教養演習AⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	2	2	55
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目：教養演習AⅡ) 日高 京子	2学期	2	2	56
		2年			
教養演習AⅡ 二宮 正人	2学期	2	2		
	2年				
教養演習AⅡ (読替科目：教養演習AⅡ) 石川 敬之	2学期	2	2	57	
	2年				
教養演習AⅡ(発達障がいセミナー) (読替科目：教養演習AⅡ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	2	2	58	
	2年				
教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 伊原木 大祐	1学期	3	2	59	
	3年				
教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 稲月 正	1学期	3	2	60	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	
	小林 道彦	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	
	徳永 政夫、高西 敏正	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習BⅠ(防衛セミナー))	1学期	3	2	61
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ (読替科目:教養演習BⅠ)	1学期	3	2	62
	日高 京子	3年			
	教養演習BⅠ (読替科目:教養演習BⅠ)	1学期	3	2	63
	石川 敬之	3年			
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BⅠ(発達障がいセミナー))	1学期	3	2	64
	伊野 憲治	3年			
	教養演習BⅡ (読替科目:教養演習BⅡ)	2学期	3	2	65
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅡ (読替科目:教養演習BⅡ)	2学期	3	2	66
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅡ (読替科目:教養演習BⅡ)	2学期	3	2	67
	神原 ゆうこ	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2		
小林 道彦	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2		
徳永 政夫、高西 敏正	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習BⅡ(防衛セミナー))	集中	3	2	68	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ (読替科目:教養演習BⅡ)	2学期	3	2	69	
日高 京子	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2		
二宮 正人	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 石川 敬之	2学期	3	2	70
	3年				
	教養演習BII(発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習BII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	71
	3年				
プロジェクト演習I (読替科目: プロジェクト演習I) 見館 好隆	1学期	2	2	148	
2年					
プロジェクト演習II (読替科目: プロジェクト演習II) 見館 好隆	2学期	3	2	149	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目: 自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	72
	1年				
	動物のみかた (読替科目: 動物のみかた) 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	73
	1年				
	地球の生いたち (読替科目: 地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	74
	1年				
	自然史へのいざない (読替科目: 自然史へのいざない) 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	75
	1年				
	くらしと化学 (読替科目: くらしと化学) 秋貞 英雄	1学期	1	2	76
	1年				
	現代人のこころ (読替科目: 現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	77
	1年				
	数のたのしみ 閉講		1	2	
1年					
私たちと宗教 (読替科目: 私たちと宗教) 佐藤 真人	2学期	1	2	79	
1年					
思想と現代 (読替科目: 思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	80	
1年					
ものがたりと人間 閉講		1	2		
1年					
文化と表象 (読替科目: 文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	81	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	言語とコミュニケーション (読替科目: 言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	82
	1年				
	芸術と人間 (読替科目: 芸術と人間) 真武 真喜子	2学期	1	2	83
	1年				
	文学を読む (読替科目: 文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	84
	1年				
	戦争と人間 閉講		1	2	
	1年				
	現代正義論 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	85
	1年				
	民主主義とは何か (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	86
	1年				
	人権論 (読替科目: 人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	88
	1年				
	ジェンダー論 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	89
	1年				
	障がい学 (読替科目: 障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	90
	1年				
	共生の作法 (読替科目: 共生の作法) 今泉 恵子 他	1学期	1	2	91
1年					
北九州学 (読替科目: 環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	78	
1年					
市民活動論 (読替科目: 市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	94	
1年					
企業と社会 (読替科目: 企業と社会) 山下 剛	1学期	1	2	95	
1年					
つながりの人間学 (読替科目: サービスラーニング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	147	
1年					
現代社会と倫理 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	96	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題 (読替科目：現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	97
		1年			
	現代の国際情勢 (読替科目：現代の国際情勢) 尹 明憲 他	1学期	1	2	98
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	1
		1年			
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (読替科目：エスニシティと多文化社会) 久木 尚志 他	1学期	1	2	103
		1年			
	開発と統治 (読替科目：開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	99
		1年			
	グローバル化する経済 (読替科目：グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	100
		1年			
	テロリズム論 (読替科目：テロリズム論) 戸蔭 仁司	2学期	1	2	101
		1年			
	国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 阿部 容子 他	2学期	1	2	102
		1年			
	歴史の読み方I (読替科目：歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	104
	1年				
歴史の読み方II (読替科目：歴史の読み方II) 赤司 友徳	1学期	1	2	105	
	1年				
そのとき世界は (読替科目：そのとき世界は) 伊野 憲治	2学期	1	2	106	
	1年				
戦後の日本経済 (読替科目：戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	107	
	1年				
都市と農村の生活文化史 閉講		1	2		
	1年				
ものと人間の歴史 (読替科目：ものと人間の歴史) 中野 博文 他	1学期	1	2	108	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	109
		1年			
	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) (読替科目：教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』)) 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介	2学期	1	2	150
		1年			
	教養特講II (グローバル化と倫理的消費) (読替科目：教養特講II (グローバル化と倫理的消費)) 大平 剛	1学期	1	2	151
		1年			
教養特講III (まなびと講座A) 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講IV (まなびと講座B) (読替科目：教養特講IV (まなびと講座B)) 眞鍋 和博	2学期	1	2	152	
	1年				
■教職関連科目	日本史 (読替科目：日本史) 古賀 康士	2学期	1	2	110
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	112
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 植松 慎悟	2学期	1	2	111
		1年			
	社会学 (読替科目：社会学的思考) 稲月 正	1学期	1	2	87
		1年			
	人文地理学 (読替科目：人文地理学) 外柙保 大介	2学期	1	2	113
		1年			
	土地地理学 (読替科目：土地地理学) 野井 英明	1学期	1	2	114
		1年			
	地誌学 (読替科目：地誌学) 外柙保 大介	1学期	1	2	115
	1年				
日本国憲法 (読替科目：日本国憲法) 中村 英樹	2学期	1	2	116	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	2	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目：情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	22
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	1学期	1	2	153
		中 1 年			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 浅羽 修丈	1学期	1	2	154
		人 1 - 1 . 再履 (人 1 - 1 , 英 1 - 1 , 英 1 - 2 , 中)			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 佐藤 貴之	2学期	1	2	155
		1 学期未修得者再履			
	情報表現 休講	1学期	2	2	
		2 年			
	情報表現 (読替科目：情報表現) 中尾 泰士	2学期	2	2	156
		2 年			
	情報表現 (読替科目：情報表現) 棚次 奎介	2学期	2	2	157
		2 年			
	情報表現 (読替科目：情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	158
		2 年			
プログラミング基礎 閉講	2学期	2	2		
	2 年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語7 (総合) (読替科目：中国語中級総合I) 武井 満幹	1学期	2	1	233
		2 - 1			
	中国語7 (総合) (読替科目：中国語中級総合I) 武井 満幹	1学期	2	1	234
		2 - 2			
	中国語7 (総合) (読替科目：中国語中級総合I) 武井 満幹	1学期	2	1	235
		2 - 3			
	中国語8 (総合) (読替科目：中国語中級総合II) 武井 満幹	2学期	2	1	236
		2 - 1			
	中国語8 (総合) (読替科目：中国語中級総合II) 武井 満幹	2学期	2	1	237
		2 - 2			
中国語8 (総合) (読替科目：中国語中級総合II) 武井 満幹	2学期	2	1	238	
	2 - 3				
■第二外国語 英語I (中 1 - A) (読替科目：英語I (中 1 - A)) 杉山 智子	1学期	1	1	159	
	中 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語I (中 1-B) (読替科目 : 英語I (中 1-B)) 伊藤 晃	1学期	1	1	160
		中 1 - B			
	英語II (中 1-A) (読替科目 : 英語II (中 1-A)) 伊藤 晃	2学期	1	1	161
		中 1 - A			
	英語II (中 1-B) (読替科目 : 英語II (中 1-B)) 杉山 智子	2学期	1	1	162
		中 1 - B			
	英語III (中 1-A) (読替科目 : 英語III (中 1-A)) ダニー・ミン	1学期	1	1	163
		中 1 - A			
	英語III (中 1-B) (読替科目 : 英語III (中 1-B)) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	164
		中 1 - B			
	英語IV (中 1-A) (読替科目 : 英語IV (中 1-A)) ダニー・ミン	2学期	1	1	165
		中 1 - A			
	英語IV (中 1-B) (読替科目 : 英語IV (中 1-B)) ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	1	166
		中 1 - B			
	英語V (中 2-A) (読替科目 : 英語V (中 2-A)) 渡邊 嘉則	1学期	2	1	167
		中 2 - A			
	英語V (中 2-B) (読替科目 : 英語V (中 2-B)) 木梨 安子	1学期	2	1	168
		中 2 - B			
	英語VI (中 2-A) (読替科目 : 英語VI (中 2-A)) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	169
		中 2 - A			
英語VI (中 2-B) (読替科目 : 英語VI (中 2-B)) 木梨 安子	2学期	2	1	170	
	中 2 - B				
英語VII (中 2-A) (読替科目 : 英語VII (中 2-A)) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	171	
	中 2 - A				
英語VII (中 2-B) (読替科目 : 英語VII (中 2-B)) ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	1	172	
	中 2 - B				
英語VIII (中 2-A) (読替科目 : 英語VIII (中 2-A)) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	173	
	中 2 - A				
英語VIII (中 2-B) (読替科目 : 英語VIII (中 2-B)) ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	174	
	中 2 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語IX (英中国 3 年) (読替科目 : 英語IX (英中国 3 年)) 永未 康介	1学期	3	1	175
		英中国 3 年			
	英語X (英中国 3 年) (読替科目 : 英語X (英中国 3 年)) 葛西 宏信	2学期	3	1	176
		英中国 3 年			
	英語XI (英中国 3 年) (読替科目 : 英語XI (英中国 3 年)) ロバート・マーフィ	1学期	3	1	177
		英中国 3 年			
	英語XII (英中国 3 年) (読替科目 : 英語XII (英中国 3 年)) ロバート・マーフィ	2学期	3	1	178
		英中国 3 年			
	朝鮮語I (読替科目 : 朝鮮語I) 金 貞愛	1学期	1	1	179
		英中 1 年			
	朝鮮語II (読替科目 : 朝鮮語II) 金 貞愛	2学期	1	1	180
		英中 1 年			
	朝鮮語III (読替科目 : 朝鮮語III) 金 貞淑	1学期	1	1	181
		英中 1 年			
	朝鮮語IV (読替科目 : 朝鮮語IV) 金 貞淑	2学期	1	1	182
		英中 1 年			
	朝鮮語V (読替科目 : 朝鮮語V) 金 貞愛	1学期	2	1	183
		英中 2 年			
	朝鮮語VI (読替科目 : 朝鮮語VI) 金 貞愛	2学期	2	1	184
		英中 2 年			
朝鮮語VII (読替科目 : 朝鮮語VII) 金 貞淑	1学期	2	1	185	
	英中 2 年				
朝鮮語VIII (読替科目 : 朝鮮語VIII) 金 貞淑	2学期	2	1	186	
	英中 2 年				
上級朝鮮語I (読替科目 : 上級朝鮮語I) 金 貞淑	1学期	3	1	187	
	英中国済営比人 3 年				
上級朝鮮語II (読替科目 : 上級朝鮮語II) 金 貞淑	2学期	3	1	188	
	英中国済営比人 3 年				
上級朝鮮語III (読替科目 : 上級朝鮮語III) 金 貞愛	1学期	3	1	189	
	英中国済営比人 3 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語Ⅳ (読替科目：上級朝鮮語Ⅳ) 金 貞愛	2学期	3	1	190
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語Ⅰ (読替科目：ロシア語Ⅰ) 芳之内 雄二	1学期	1	1	191
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語Ⅱ (読替科目：ロシア語Ⅱ) 芳之内 雄二	2学期	1	1	192
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語Ⅲ (読替科目：ロシア語Ⅲ) ナタリア・シエスタコーフ	1学期	1	1	193
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語Ⅳ (読替科目：ロシア語Ⅳ) ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	194
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語Ⅴ (読替科目：ロシア語Ⅴ) 芳之内 雄二	1学期	2	1	195
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅵ (読替科目：ロシア語Ⅵ) 芳之内 雄二	2学期	2	1	196
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅶ (読替科目：ロシア語Ⅶ) ナタリア・シエスタコーフ	1学期	2	1	197
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅷ (読替科目：ロシア語Ⅷ) ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	198
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅰ (読替科目：ドイツ語Ⅰ) 山下 哲雄	1学期	1	1	199
		英中国 1年			
ドイツ語Ⅱ (読替科目：ドイツ語Ⅱ) 山下 哲雄	2学期	1	1	200	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅲ (読替科目：ドイツ語Ⅲ) 山下 哲雄	1学期	1	1	201	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅳ (読替科目：ドイツ語Ⅳ) 山下 哲雄	2学期	1	1	202	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅴ (読替科目：ドイツ語Ⅴ) 山下 哲雄	1学期	2	1	203	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅵ (読替科目：ドイツ語Ⅵ) 山下 哲雄	2学期	2	1	204	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VII (読替科目：ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	205
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII (読替科目：ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	206
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I (読替科目：フランス語I) 山下 広一	1学期	1	1	207
		英中国 1年			
	フランス語II (読替科目：フランス語II) 山下 広一	2学期	1	1	208
		英中国 1年			
	フランス語III (読替科目：フランス語III) 坂田 由紀	1学期	1	1	209
		英中国 1年			
	フランス語IV (読替科目：フランス語IV) 坂田 由紀	2学期	1	1	210
		英中国 1年			
	フランス語V (読替科目：フランス語V) 坂田 由紀	1学期	2	1	211
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI (読替科目：フランス語VI) 坂田 由紀	2学期	2	1	212
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII (読替科目：フランス語VII) 小野 菜都美	1学期	2	1	213
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII (読替科目：フランス語VIII) 小野 菜都美	2学期	2	1	214
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語I (読替科目：スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	215	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語II (読替科目：スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	216	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語III (読替科目：スペイン語III) 辻 博子	1学期	1	1	217	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV (読替科目：スペイン語IV) 辻 博子	2学期	1	1	218	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V (読替科目：スペイン語V) 青木 文夫	1学期	2	1	219	
	英中国済営比人律政 2年				

外国語学部 中国学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI (読替科目：スペイン語VI) 青木 文夫	2学期	2	1	220	
		英中国済営比人律政 2年				
	スペイン語VII (読替科目：スペイン語VII) 辻 博子	1学期	2	1	221	
		英中国済営比人律政 2年				
	スペイン語VIII (読替科目：スペイン語VIII) 辻 博子	2学期	2	1	222	
		英中国済営比人律政 2年				
	■留学生特別科目	日本事情 (人文) A (読替科目：日本事情 (人文) A) 清水 順子	1学期	1	2	223
			留学生 1年			
		日本事情 (人文) B (読替科目：日本事情 (人文) B) 則松 智子	2学期	1	2	224
		留学生 1年				
日本事情 (社会) A (読替科目：日本事情 (社会) A) 小林 浩明		1学期	1	2	225	
		留学生 1年				
日本事情 (社会) B (読替科目：日本事情 (社会) B) 小林 浩明		2学期	1	2	226	
		留学生 1年				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話B I (読替科目：中国語初級会話I) 葉 言材	1学期	1	1	227	
		1年				
	中国語初級会話B I (読替科目：中国語初級会話I) 葉 言材	1学期	1	1	228	
		1年				
	中国語初級会話B I (読替科目：中国語初級会話I) 葉 言材	1学期	1	1	229	
		1年				
	中国語初級会話B II (読替科目：中国語初級会話II) 葉 言材	2学期	1	1	230	
		1年				
	中国語初級会話B II (読替科目：中国語初級会話II) 葉 言材	2学期	1	1	231	
		1年				
	中国語初級会話B II (読替科目：中国語初級会話II) 葉 言材	2学期	1	1	232	
		1年				
	中国語中級会話A I (読替科目：中国語中級会話A I) 張 景珊	1学期	2	1	245	
	2 - 1					
中国語中級会話A I (読替科目：中国語中級会話A I) 張 景珊	1学期	2	1	246		
	2 - 2					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級会話AⅠ (読替科目：中国語中級会話AⅠ) 張 景珊	1学期	2	1	247
		2 - 3			
	中国語中級会話AⅡ (読替科目：中国語中級会話AⅡ) 張 景珊	2学期	2	1	248
		2 - 1			
	中国語中級会話AⅡ (読替科目：中国語中級会話AⅡ) 張 景珊	2学期	2	1	249
		2 - 2			
	中国語中級会話AⅡ (読替科目：中国語中級会話AⅡ) 張 景珊	2学期	2	1	250
		2 - 3			
	中国語中級会話BⅠ (読替科目：中国語中級会話BⅠ) 王 曉芳	1学期	2	1	251
		2 - 1			
	中国語中級会話BⅠ (読替科目：中国語中級会話BⅠ) 王 曉芳	1学期	2	1	252
		2 - 2			
	中国語中級会話BⅠ (読替科目：中国語中級会話BⅠ) 王 曉芳	1学期	2	1	253
		2 - 3			
	中国語中級会話BⅡ (読替科目：中国語中級会話BⅡ) 王 曉芳	2学期	2	1	254
		2 - 1			
	中国語中級会話BⅡ (読替科目：中国語中級会話BⅡ) 王 曉芳	2学期	2	1	255
		2 - 2			
	中国語中級会話BⅡ (読替科目：中国語中級会話BⅡ) 王 曉芳	2学期	2	1	256
		2 - 3			
中国語講読Ⅰ (読替科目：中国作品講読Ⅰ) 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	239	
	2 - 1				
中国語講読Ⅰ (読替科目：中国作品講読Ⅰ) 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	240	
	2 - 2				
中国語講読Ⅰ (読替科目：中国作品講読Ⅰ) 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	241	
	2 - 3				
中国語講読Ⅱ (読替科目：中国作品講読Ⅱ) 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	242	
	2 - 1				
中国語講読Ⅱ (読替科目：中国作品講読Ⅱ) 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	243	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語講読II (読替科目：中国作品講読II) 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	244
		2 - 3			
	中国語中級作文I (読替科目：中国語中級作文I) 陳 振華	1学期	2	2	257
		2 - 1			
	中国語中級作文I (読替科目：中国語中級作文I) 陳 振華	1学期	2	2	258
		2 - 2			
	中国語中級作文I (読替科目：中国語中級作文I) 陳 振華	1学期	2	2	259
		2 - 3			
	中国語中級作文II (読替科目：中国語中級作文II) 陳 振華	2学期	2	2	260
		2 - 1			
	中国語中級作文II (読替科目：中国語中級作文II) 陳 振華	2学期	2	2	261
		2 - 2			
	中国語中級作文II (読替科目：中国語中級作文II) 陳 振華	2学期	2	2	262
		2 - 3			
	中国語上級会話AI 閉講	1学期	3	2	
		3 - 1			
	中国語上級会話AI 閉講	1学期	3	2	
		3 - 2			
	中国語上級会話AI 閉講	1学期	3	2	
		3 - 3			
中国語上級会話AII 閉講	2学期	3	2		
	3 - 1				
中国語上級会話AII 閉講	2学期	3	2		
	3 - 2				
中国語上級会話AII 閉講	2学期	3	2		
	3 - 3				
中国語上級作文I (読替科目：中国語上級作文I) 篠原 征子	1学期	3	2	269	
	3 - A				
中国語上級作文I (読替科目：中国語上級作文I) 篠原 征子	1学期	3	2	270	
	3 - B				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語上級作文I	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	中国語上級作文II (読替科目：中国語上級作文II)	2学期	3	2	271
	篠原 征子	3 - A			
	中国語上級作文II (読替科目：中国語上級作文II)	2学期	3	2	272
	篠原 征子	3 - B			
	中国語上級作文II	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	中国語リスニングI (読替科目：中国語中級リスニングI)	1学期	2	1	263
	馬 叢慧	2 - 1			
	中国語リスニングI (読替科目：中国語中級リスニングI)	1学期	2	1	264
	馬 叢慧	2 - 2			
	中国語リスニングI (読替科目：中国語中級リスニングI)	1学期	2	1	265
	馬 叢慧	2 - 3			
	中国語リスニングII (読替科目：中国語中級リスニングII)	2学期	2	1	266
	馬 叢慧	2 - 1			
	中国語リスニングII (読替科目：中国語中級リスニングII)	2学期	2	1	267
	馬 叢慧	2 - 2			
	中国語リスニングII (読替科目：中国語中級リスニングII)	2学期	2	1	268
	馬 叢慧	2 - 3			
中国語リスニングIII (読替科目：中国語上級リスニングI)	1学期	3	1	273	
王 雲燕	3 - A				
中国語リスニングIII (読替科目：中国語上級リスニングI)	1学期	3	1	274	
王 雲燕	3 - B				
中国語リスニングIII	1学期	3	1		
閉講	3年				
中国語リスニングIV (読替科目：中国語上級リスニングII)	2学期	3	1	275	
王 雲燕	3 - A				
中国語リスニングIV (読替科目：中国語上級リスニングII)	2学期	3	1	276	
王 雲燕	3 - B				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語リスニングⅣ	2学期	3	1	
	閉講	3年			
■演習科目	研究演習 10 A	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	研究演習 1 A (読替科目：研究演習 A) 鳥谷 まゆみ	1学期	3	2	277
		3年			
	研究演習 2 A (読替科目：研究演習 A) 武井 満幹	1学期	3	2	278
		3年			
	研究演習 3 A (読替科目：研究演習 A) 平田 直子	1学期	3	2	279
		3年			
	研究演習 4 A (読替科目：研究演習 A) 白石 麻保	1学期	3	2	280
		3年			
	研究演習 5 A	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	研究演習 6 A (読替科目：研究演習 A) 西 香織	1学期	3	2	281
		3年			
	研究演習 7 A (読替科目：研究演習 A) 堀地 明	2学期	3	2	282
		3年			
	研究演習 8 A (読替科目：研究演習 A) 山本 進	1学期	3	2	283
		3年			
	研究演習 9 A (読替科目：研究演習 A) 葉 言材	1学期	3	2	284
		3年			
	研究演習 10 B	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	研究演習 1 B (読替科目：研究演習 B) 鳥谷 まゆみ	2学期	3	2	285
		3年			
	研究演習 2 B (読替科目：研究演習 B) 武井 満幹	2学期	3	2	286
		3年			
	研究演習 3 B (読替科目：研究演習 B) 平田 直子	2学期	3	2	287
		3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 4 B (読替科目：研究演習 B) 白石 麻保	2学期	3	2	288
		3年			
	研究演習 5 B 閉講	2学期	3	2	
		3年			
	研究演習 6 B (読替科目：研究演習 B) 西 香織	2学期	3	2	289
		3年			
	研究演習 7 B (読替科目：研究演習 B) 堀地 明	2学期	3	2	290
		3年			
	研究演習 8 B (読替科目：研究演習 B) 山本 進	2学期	3	2	291
		3年			
	研究演習 9 B (読替科目：研究演習 B) 葉 言材	2学期	3	2	292
		3年			
	卒業研究演習 10 A 閉講	1学期	4	2	
		4年			
	卒業研究演習 1 A (読替科目：卒業研究演習 A) 鳥谷 まゆみ	1学期	4	2	293
		4年			
	卒業研究演習 2 A (読替科目：卒業研究演習 A) 武井 満幹	1学期	4	2	294
		4年			
	卒業研究演習 3 A (読替科目：卒業研究演習 A) 平田 直子	1学期	4	2	295
		4年			
卒業研究演習 4 A (読替科目：卒業研究演習 A) 白石 麻保	1学期	4	2	296	
	4年				
卒業研究演習 5 A 閉講	1学期	4	2		
	4年				
卒業研究演習 6 A (読替科目：卒業研究演習 A) 西 香織	1学期	4	2	297	
	4年				
卒業研究演習 7 A (読替科目：卒業研究演習 A) 堀地 明	2学期	4	2	298	
	4年				
卒業研究演習 8 A (読替科目：卒業研究演習 A) 山本 進	1学期	4	2	299	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習 9 A (読替科目：卒業研究演習 A) 葉 言材	1学期	4	2	300
		4年			
	卒業研究演習 10 B 閉講	2学期	4	2	
		4年			
	卒業研究演習 1 B (読替科目：卒業研究演習 B) 鳥谷 まゆみ	2学期	4	2	301
		4年			
	卒業研究演習 2 B (読替科目：卒業研究演習 B) 武井 満幹	2学期	4	2	302
		4年			
	卒業研究演習 3 B (読替科目：卒業研究演習 B) 平田 直子	2学期	4	2	303
		4年			
	卒業研究演習 4 B (読替科目：卒業研究演習 B) 白石 麻保	2学期	4	2	304
		4年			
	卒業研究演習 5 B 閉講	2学期	4	2	
		4年			
卒業研究演習 6 B (読替科目：卒業研究演習 B) 西 香織	2学期	4	2	305	
	4年				
卒業研究演習 7 B (読替科目：卒業研究演習 B) 堀地 明	2学期	4	2	306	
	4年				
卒業研究演習 8 B (読替科目：卒業研究演習 B) 山本 進	2学期	4	2	307	
	4年				
卒業研究演習 9 B (読替科目：卒業研究演習 B) 葉 言材	2学期	4	2	308	
	4年				
■選択科目 ■専門科目	中国文学史I (読替科目：中国文学概論I) 与小田 隆一	1学期	2	2	312
		2年			
	中国文学史II (読替科目：中国文学概論II) 与小田 隆一	2学期	2	2	313
		2年			
	時事中国語講読I (読替科目：時事中国語講読I) 白石 麻保	1学期	2	2	329
		2年			
	時事中国語講読II (読替科目：時事中国語講読II) 白石 麻保	2学期	2	2	330
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国の政治外交I (読替科目: 現代中国の政治) 下野 寿子	2学期	2	2	319
		2年			
	中国の政治外交II (読替科目: 現代中国の外交) 下野 寿子	2学期	2	2	320
		2年			
	中国文化論 (読替科目: 中国文化論) 板谷 秀子	1学期	2	2	314
		2年			
	日中文化比較 (読替科目: 日中比較文化論) 板谷 秀子	2学期	2	2	322
		2年			
	比較中国思想 (読替科目: 比較中国思想) 鄧 紅	2学期	2	2	328
		2年			
	中国社会経済史I (読替科目: 中国社会経済史I) 山本 進	1学期	2	2	323
		2年			
	中国社会経済史II (読替科目: 中国社会経済史II) 山本 進	2学期	2	2	324
		2年			
	中国経済論I (読替科目: 中国経済論I) 白石 麻保	1学期	2	2	325
		2年			
中国経済論II (読替科目: 中国経済論II) 白石 麻保	2学期	2	2	326	
	2年				
漢文学 (読替科目: 漢文学) 榑崎 洋一郎	1学期	2	2	327	
	2年				
文学作品講読A (読替科目: 中国語現代文献講読I) 堤 和幸	1学期	3	2	331	
	3年				
文学作品講読B (読替科目: 中国語現代文献講読II) 堀地 明	2学期	3	2	332	
	3年				
中国歴史社会研究I (読替科目: 中国歴史社会研究I) 山本 進	1学期	3	2	333	
	3年				
中国歴史社会研究II (読替科目: 中国歴史社会研究II) 山本 進	2学期	3	2	334	
	3年				
ビジネス中国語A (読替科目: ビジネス中国語I) 唐 雋	1学期	3	2	335	
	3 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	ビジネス中国語A (読替科目：ビジネス中国語I) 唐 雋	1学期	3	2	336
		3 - B			
	ビジネス中国語B (読替科目：ビジネス中国語II) 唐 雋	2学期	3	2	337
		3 - A			
	ビジネス中国語B (読替科目：ビジネス中国語II) 唐 雋	2学期	3	2	338
		3 - B			
	中国の社会 (読替科目：中国の社会) 植松 慎悟	2学期	3	2	321
		3年			
	東アジア経済論 (読替科目：東アジア経済論) 尹 明憲	1学期	3	2	339
		3年			
■関連科目	地域研究入門 (朝鮮半島) 高橋 優子	2学期	2	2	3
		2年			
	地域研究入門 (東南アジア) (読替科目：東南アジア研究概論) 篠崎 香織	2学期	2	2	340
		2年			
	英米文化概論I (読替科目：英米文化概論I) 久木 尚志	1学期	2	2	341
		2年			
	英米文化概論II (読替科目：英米文化概論II) 中野・北	2学期	2	2	342
		2年			
	国際関係論I 阿部 容子	1学期	3	2	4
		3年			
	国際関係論II 大平 剛	2学期	3	2	5
		3年			
	アメリカの政治I 中野 博文	1学期	3	2	6
		3年			
アメリカの政治II 中野 博文	2学期	3	2	7	
	3年				
アメリカの政治III 休講	1学期	3	2		
	3年				
アメリカの政治IV 休講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	東アジア地域秩序論I (読替科目: 東アジア地域秩序論I) 金 鳳珍	1学期	3	2	343
		3年			
	東アジア地域秩序論II (読替科目: 東アジア地域秩序論II) 金 鳳珍	2学期	3	2	344
		3年			
	国際経済論I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	国際経済論II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	アジア地域統合論 (読替科目: 東南アジアの政治と外交) 篠崎 香織	2学期	3	2	348
		3年			
	韓国・北朝鮮の政治外交I 李 東俊	1学期	3	2	8
		3年			
	韓国・北朝鮮の政治外交II 福原 裕二	2学期	3	2	9
		3年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	3	2	10
		3年			
	国際法II 二宮 正人	2学期	3	2	11
		3年			
	比較日本文学 閉講	1学期	3	2	
		3年			
世界経済論I 尹 明憲	2学期	3	2	12	
	3年				
世界経済論II 尹 明憲	2学期	3	2	13	
	3年				
途上国開発論 三宅 博之	1学期	4	2	14	
	4年				
アメリカ経済 (読替科目: アメリカ経済) 山崎 好裕	2学期	4	2	347	
	4年				
アメリカの社会I 北 美幸	1学期	4	2	15	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	アメリカの社会II 北 美幸	2学期	4	2	16
	4年				
	国際貿易論I (読替科目：国際貿易論I) 水戸 康夫	1学期	4	2	345
	4年				
	国際貿易論II (読替科目：国際貿易論II) 水戸 康夫	2学期	4	2	346
	4年				
■基礎教育科目	地域研究入門(中国) (読替科目：中国研究概論) 下野 寿子	2学期	1	2	309
	1年				
	中国近現代史I (読替科目：中国近現代史I) 堤 和幸	1学期	1	2	310
	1年				
	中国近現代史II (読替科目：中国近現代史II) 堀地 明	2学期	1	2	311
	1年				
	中国語学概論I (読替科目：中国語学概論I) 一木 達彦	1学期	1	2	315
	1年				
	中国語学概論II (読替科目：中国語学概論II) 一木 達彦	2学期	1	2	316
	1年				
	中国語音声学I (読替科目：中国語音声学I) 平田 直子	1学期	1	2	317
	1年				
	中国語音声学II (読替科目：中国語音声学II) 平田 直子	2学期	1	2	318
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 楠 凡之	1学期	1	2	349
	1年				
	教育原理 (読替科目：教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	350
	1年				
	発達心理学 (読替科目：発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	351
	2年				
教育制度 休講	1学期	3	2		
3年					
中国語科教育法I 休講	1学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	中国語科教育法II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道德教育の研究 (読替科目：道德教育指導論)	2学期	2	2	354
	田中 友佳子	2年			
	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論)	1学期	2	2	355
	楠 凡之	2年			
	教育方法学 (読替科目：教育方法学)	1学期	2	2	356
	下地 貴樹	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習 1 (読替科目：教育実習 1)	2学期	3	2	359
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 2 (読替科目：教育実習 2)	1学期	4	2	360
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3 (読替科目：教育実習 3)	1学期	4	2	361
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育相談 (読替科目：教育相談)	1学期	2	2	358
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論 (読替科目：生徒・進路指導論)	2学期	2	2	357	
楠 凡之	2年				
中国語科教育法III (読替科目：中国語科教育法C)	1学期	2	2	352	
胡 玉華	2年				
中国語科教育法IV (読替科目：中国語科教育法D)	2学期	2	2	353	
胡 玉華	2年				
教職実践演習(中・高)	2学期	4	2		
休講	4年				
■選択科目	教育心理学 (読替科目：教育心理学)	2学期	2	2	362
	下地 貴樹	2年			
	教育法規	2学期	3	2	
休講	3年				

外国語学部 中国学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導 (読替科目：障害児の心理と指導) 税田 慶昭	2学期	2	2	363
		2年			
■教職に関する科目 ■選択科目	教育社会学 (読替科目：教育社会学) 作田 誠一郎	集中	2	2	364
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目：人権教育論) 弓野 勝族	1学期	2	2	365
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	2学期	1	2		
	休講	1年				
	人間と文化	1学期	1	2		
	休講	1年				
	ことばの科学 (読替科目: ことばの科学)	漆原 朗子	1学期	1	2	366
			1年			
国際学入門 (読替科目: 国際学入門)	伊野 憲治	1学期	1	2	367	
		1年				
生活世界の哲学 (読替科目: 生活世界の哲学)	伊原木 大祐	2学期	1	2	368	
		1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI)	寺田 千栄子	1学期	1	2	384
			1年			
	メンタル・ヘルスII	休講	2学期	1	2	
			1年			
	フィジカル・ヘルスI	休講	1学期	1	2	
			1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目: フィジカル・ヘルスII)	山本 浩二	2学期	1	2	385
			1年			
	社会調査 (読替科目: 社会調査)	稲月 正	2学期	1	2	375
			1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン))	徳永 政夫	1学期	1	1	386	
		1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	休講	2学期	1	1		
		1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I	二宮 正人	1学期	1	2	
			1年			
■テーマ科目	地球の生いたち (読替科目: 地球の生いたち)	長井 孝一	2学期	1	2	370
			1年			
	現代人のこころ	休講	1学期	1	2	
		1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	思想と現代 (読替科目: 思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	371
		1年			
	文学を読む 休講	2学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民主主義とは何か (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	372
		1年			
	人権論 (読替科目: 人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	373
		1年			
	ジェンダー論 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	374
		1年			
	障がい学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 (読替科目: 市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	376
		1年			
企業と社会 (読替科目: 企業と社会) 山下 剛	1学期	1	2	377	
	1年				
現代社会と倫理 休講	1学期	1	2		
	1年				
現代の国際情勢 (読替科目: 現代の国際情勢) 尹 明憲 他	1学期	1	2	378	
	1年				
国際社会論 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 (読替科目: 国際紛争と国連) 二宮 正人	2学期	1	2	380	
	1年				
開発と統治 (読替科目: 開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	379	
	1年				
グローバル化する経済 休講	1学期	1	2		
	1年				

外国語学部 中国学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本	2学期	1	2	381	
	休講	1年				
	歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I)	赤司 友徳	1学期	1	2	381
	休講	1年				
	歴史の読み方II	休講	1学期	1	2	382
	休講	1年				
	そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は)	伊野 憲治	2学期	1	2	382
	休講	1年				
	人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史)	山崎 勇治 他	1学期	1	2	383
	休講	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待)	中尾 泰士	2学期	1	2	369
	休講	1年				
	データ処理 (読替科目: データ処理)	浅羽 修丈	2学期	1	2	387
	休講	1学期未修得者再履				
	情報表現 (読替科目: 情報表現)	浅羽 修丈	2学期	2	2	388
	休講	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語1(総合)	閉講	1学期	1	1	
	休講	1年				
	中国語2(総合)	閉講	2学期	1	1	
	休講	1年				
	中国語3(音声中心)	閉講	1学期	1	1	
	休講	1年				
	中国語4(音声中心)	閉講	2学期	1	1	
	休講	1年				
	中国語5(文法中心)	閉講	1学期	1	1	
	休講	1年				
	中国語6(文法中心)	閉講	2学期	1	1	
	休講	1年				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話A1	閉講	1学期	1	1	
	休講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話AII 閉講	2学期	1	1	17
		1年			
	中国語上級会話AI 宋 健華	1学期	3	2	18
		3年			
	中国語上級会話AII 張 景珊	2学期	3	2	389
		3年			
■選択科目 ■関連科目	国際経済論I (読替科目：国際経済論I) 末永 勝昭	1学期	3	2	390
		3年			
	国際経済論II (読替科目：国際経済論II) 末永 勝昭	2学期	3	2	391
		3年			
	国際法I 休講	1学期	3	2	392
		3年			
	国際法II 休講	2学期	3	2	393
		3年			
	アメリカ経済 休講	2学期	4	2	394
		4年			
	国際貿易論I 閉講	1学期	4	2	395
		4年			
	国際貿易論II 閉講	2学期	4	2	396
		4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 楠 凡之	1学期	1	2	397
		1年			
	教育原理 (読替科目：教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	398
		1年			
	発達心理学 (読替科目：発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	399
		2年			
教育制度 休講	1学期	3	2	400	
	3年				
中国語科教育法I 休講	1学期	2	2	401	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	中国語科教育法II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道德教育の研究 (読替科目：道德教育指導論)	2学期	2	2	394
	田中 友佳子	2年			
	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論)	1学期	2	2	395
	楠 凡之	2年			
	教育方法学 (読替科目：教育方法学)	1学期	2	2	396
	下地 貴樹	2年			
	教育工学 (読替科目：教育工学)	2学期	2	2	405
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1 (読替科目：教育実習 1)	2学期	3	2	399
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 2 (読替科目：教育実習 2)	1学期	4	2	400
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3 (読替科目：教育実習 3)	1学期	4	2	401
	恒吉 紀寿 他	4年			
教育相談 (読替科目：教育相談)	1学期	2	2	398	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論 (読替科目：生徒・進路指導論)	2学期	2	2	397	
楠 凡之	2年				
中国語科教育法III	1学期	2	2		
休講	2年				
中国語科教育法IV	2学期	2	2		
休講	2年				
教職実践演習 (中・高) (読替科目：教職実践演習 (中・高))	2学期	4	2	402	
楠 凡之 他	4年				
■選択科目	教育心理学 (読替科目：教育心理学)	2学期	2	2	403
	田島 司	2年			
	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			

外国語学部 中国学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目 : 人権教育論)	1学期	2	2	404
	弓野 勝族	2年			

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨンおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想【イデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想【信と知】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想【旅とコギト】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想【オランダの自由】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 高橋 優子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化は長きにわたって、日本社会に様々な影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関係を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるうえでの基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜する国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験や知見を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。授業の中で適宜、読むべき書籍を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 趙景達 『近代朝鮮と日本』 (岩波新書) (東京 : 岩波書店、2012年)、846円 (税別)。
 - 水野俊平 『韓国の歴史 < 増補改訂版 >』 (河出書房新社、2017年) 2,000円 + 税
 - 糟谷憲一、並木真人、林雄介 『朝鮮現代史』 (山川出版社、2016年) 3,500円 + 税
 - 文京洙 『新・韓国現代史』 (岩波書店、2015年) 840円 + 税
 - 水野直樹、文京洙 『在日朝鮮人 歴史と現在』 (岩波書店、2015年) 820円 + 税
 - 徐仲錫 著・文京洙 訳 『韓国現代史60年』 (東京 : 明石書店、2008年)、2400円 (税別)。
 - ブルース・カミングス 著、横田安司・小林知子 訳 『現代朝鮮の歴史-世界のなかの朝鮮』 (東京 : 明石書店、2003年)。
- その他、授業中に配布する資料・レジュメ。
必要に応じて授業の中でも上記以外の参考書を紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 近代化から植民地化まで
 - 第3回 植民地時代と独立運動 (1) 【三・一独立運動まで】
 - 第4回 植民地時代と独立運動 (2) 【解放まで】
 - 第5回 解放、分断、朝鮮戦争 (李承晩政権)
 - 第6回 朴正熙政権
 - 第7回 1970年代の南北関係
 - 第8回 民主化運動
 - 第9回 金融危機から「世界化」へ
 - 第10回 金日成と主体思想
 - 第11回 金正日時代の北朝鮮
 - 第12回 21世紀の朝鮮半島
 - 第13回 在日コリアンの歴史と現在 (1) 【1世、2世の時代】
 - 第14回 在日コリアンの歴史と現在 (2) 【未来の模索】
 - 第15回 まとめ (小テスト)
- (注) 授業の進捗度などによって変更の可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- コメントカード・・・ 20%
- 小テスト・・・ 30%
- レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で指定した資料・文献をきちんと読んだうえで授業に臨むこと。
授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本近現代史に関する基礎知識を要するなど、少々難易度の高い講義になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

近代、日韓併合、植民地、解放・分断、分断、正統性、安全保障、日韓関係、請求権、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
 2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
 3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
 4. リアリズム【アナキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
 5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
 6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
 7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
 8. 前半の総括
 9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
 10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
 11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
 12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
 13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
 14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
 15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジユメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』有信堂高文社、2015年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
 - 第2回 「アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【中国の台頭】【リバランス戦略】
 - 第3回 「アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【防衛装備移転三原則】【集団的自衛権】
 - 第4回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】【恐怖からの自由】【欠乏からの自由】
 - 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【コソヴォ紛争】【ルワンダ内戦】【内政不干渉原則】
 - 第6回 「保護する責任」(2)【介入と国家主権に関する国際委員会】
 - 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】【ディアスポラ】
 - 第8回 「アフリカ情勢」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
 - 第9回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
 - 第10回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
 - 第11回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
 - 第12回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
 - 第13回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
 - 第14回 「フェアトレード」【フェアトレードタウン】【倫理的消費】
 - 第15回 まとめ
- ※順番は入れ替わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・40% (10回×4%) 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジユメを前週の金曜日を目処にイントラ上にアップします。受講生は事前に目を通しておくように。また、事後学習として、講義の要点について提出を求めます(10回、Moodleを活用する予定)。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

アメリカの政治I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣 2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。
授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカの政治II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

植民地期から第一次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、植民地期から建国期のアメリカについて国際情勢と社会状況を踏まえて、その政治秩序の形成を論じ、続いて南北戦争後に国家秩序が再編された経緯を説明する。そして、後半では門戸開放外交を軸としたアメリカ合衆国の積極的対外政策の展開と第一次世界大戦の衝撃を扱う。

教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野博文『ヘンリ・アダムズとその時代』（彩流社 2016年）
教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回18世紀のヨーロッパ国際秩序とアメリカ世界
- 第3回独立革命再考
- 第4回合衆国憲法体制
- 第5回大陸国家と海洋国家
- 第6回志願兵制と貿易体制
- 第7回南北戦争の衝撃
- 第8回合衆国憲法体制の再編
- 第9回政党制の再編
- 第10回対外進出の始まり
- 第11回帝国主義外交とアメリカ
- 第12回門戸開放外交とな何であったか
- 第13回門戸開放外交の変容
- 第14回第一次世界大戦と市民的自由の追求
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
また授業前にあらかじめ教科書で内容を予習し、授業後は復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上の繰り返しですが、授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照らしながら、理解を深めること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線に置かれながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心にした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

○ 木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：韓国現代史をどうみるか
 - 第2回 解放、冷戦と南北分断体制の形成
 - 第3回 朝鮮戦争
 - 第4回 李承晩政権の政治・外交・経済
 - 第5回 朴正熙政権の政治・外交・経済
 - 第6回 日韓国交正常化への道程
 - 第7回 テタント、権威主義体制、産業化
 - 第8回 脱冷戦と韓国の外交路線
 - 第9回 民主化への道程
 - 第10回 韓国の同盟政治
 - 第11回 韓国の対日政策
 - 第12回 韓国の統一政策（対北政策）
 - 第13回 韓国の政党政治
 - 第14回 韓国の課題：成長と分配、少子高齢化、民主主義
 - 第15回 まとめ
- （注）授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
（注）受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%
レポート・・・30%
読書感想文・・・20%、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- （1）テキストなどは講義と相互補完的関係にあるので、授業開始までにきちんと読むこと。
- （2）授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
- （3）本講義は内容的に2学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交II」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

韓国政治、韓国外交、分断体制、冷戦、脱植民地化、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 /Instructor 福原 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の史的展開をたどりつつ、その政治・外交を講じる。まずは南北を問わず、朝鮮半島を“理解する”ことを理解することから始めたい。次いで、北朝鮮のいまを概説した上で、その背景（北朝鮮の歩み）を議論していく。そこでは、北朝鮮の政治社会・外交が限られた国内資源と厳しい対外環境のなかで形成され、確立し、展開されていく状況が素描されるだろう。こうして、北朝鮮の政治・外交に関して通覧したあと、北朝鮮の政治・外交をより身近に、より深みを持って「理解する」ために、北朝鮮と韓国・日本との関係を取り上げる。

教科書 /Textbooks

とくに使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 金聖甫・奇光舒・李信澈著、李泳采監訳・解説、韓興鉄訳『写真と絵で見る北朝鮮現代史』（コモンズ、2010年）
- ・ 平岩俊司『北朝鮮-変貌を続ける独裁国家』（中公新書、2013年）
- ・ ドン・オーバード・ファー、ロバート・カーリン著、菱木一美訳『二つのコリア-国際政治の中の朝鮮半島（第三版）』（共同通信社、2015年）
- ・ 福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』（国際書院、2015年）
- ・ 三村光弘『現代朝鮮経済-挫折と再生への歩み』（日本評論社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回...イントロダクション：朝鮮半島の政治外交を見る視角
- 第2回...“北朝鮮危機”とは何なのか（強面の北朝鮮）
- 第3回...北朝鮮現在の一面（柔らかな北朝鮮）
- 第4回...朝鮮半島の“解放”（北朝鮮の遺伝子）
- 第5回...分断国家の建国（北朝鮮の至上命題）
- 第6回...朝鮮戦争（北朝鮮の歩まざる道）
- 第7回...復興と社会主義建設（北朝鮮社会の基本的枠組）
- 第8回...自主独立外交の形成と展開（北朝鮮外交の葛藤と依存）
- 第9回...“首領制”の確立（北朝鮮の政治体制）
- 第10回...金正日政権（北朝鮮の変転）
- 第11回...金正恩政権（北朝鮮の回帰と挑戦）
- 第12回...朝鮮半島の統一問題（北朝鮮の苦悩）
- 第13回...日朝関係（北朝鮮の苛立ち）
- 第14回...北朝鮮による日本人拉致問題（北朝鮮の過ち）
- 第15回...総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート...50%、期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ、次回のppt/ハンドアウトを配付するので、その内容に目を通し、分からない語句や人名・地名があれば、調べておくこと。また、講義した内容で不明なことがあれば、質問するか参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容と他の地域研究科目で扱う内容とを併せて学習すると、北朝鮮政治・外交が有する国益に忠実な“普通の国家”の側面、またもちろん独特な行動と態度、展開の一端が理解できるようになるでしょう。
講義内では学問（学び問われること）であることを意識して、なるべく聴講者に問いかけを行うよう努めますので、予習・復習のみならず、喫緊の朝鮮半島をめぐる出来事にアンテナを立てておくようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、非常勤講師が行いますので、講義外でコミュニケーションを取ることが困難となりそうです。このため、毎回コメントカードを配付しますので、講義のコミュニケーションツールとして活用して下さい。
北朝鮮は隣国でありながら、「何がしたいのかわからない」国だと理解を敬遠されるくらいがあります。そのくせ、日本の脅威だから、何とかしないと...。何とかしないと...。何とかしないと...。敬遠するのはやめましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮半島 北朝鮮 韓国

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。

この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学舎、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 第2回 分業の利益
- 第3回 価格メカニズム
- 第4回 市場の効率性
- 第5回 市場の失敗
- 第6回 市場の限界
- 第7回 労働市場(またはミクロ経済学についての中間テスト)
- 第8回 GDPとは何か
- 第9回 何がGDPを決めるか
- 第10回 消費需要と投資需要
- 第11回 貨幣と金融
- 第12回 政府の役割
- 第13回 外国貿易と為替レート
- 第14回 経済成長と国民生活
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テストまたはレポート(2回) ... 70%、平常点および課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済関連記事に目を通しておく。事後学習としては、記事を読み返して授業で学んだ専門用語や知識を念頭に置きながら、現実の経済を理解できるようにする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 財政 貿易

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、国際貿易や為替レート、直接投資と多国籍企業、発展途上国の貧困、地球環境問題など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『第3版 グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと 第3版』有斐閣
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 国際貿易(1)： 国際貿易の意義と現状、
- 3回 国際貿易(2)： 国際貿易の基本原則
- 4回 国際貿易(3)： 貿易のタイプ、フェアトレード
- 5回 国際収支と外国為替(1)： 国際収支の内訳、
- 6回 国際収支と外国為替(2)： 国際収支とマクロバランス、外国為替のしくみ
- 7回 国際収支と外国為替(3)： 為替レートの決め方
- 8回 直接投資と多国籍企業(1)： そもそも企業・会社とは何か
- 9回 直接投資と多国籍企業(2)： 直接投資と多国籍企業の定義と現状
- 10回 直接投資と多国籍企業(3)： 直接投資と多国籍企業をめぐる理論
- 11回 世界の中の貧困と格差(1)： 発展途上国の現状と貧困認識
- 12回 世界の中の貧困と格差(2)： 南北問題と開発援助
- 13回 地球環境問題(1)： 「持続可能な開発」概念、温暖化問題
- 14回 地球環境問題(2)： 地球温暖化への国際的取組み
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...30% 期末試験またはレポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、経済関係の用語をあらかじめ自分で確認しておくこと。事後学習としては、経済学では論理的なつながりが重要になるので、論理的なつながりを確認しながら復習する。

履修上の注意 /Remarks

普段から新聞やニュースに触れて経済も含めた世界の動向についての情報を仕入れておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

国際貿易、国際収支、直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地球環境問題、

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線と余るティ・線の考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の成果と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源分配】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴していただきます。英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようしていただきます。同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2017年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性はある。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

上杉忍『アメリカ黒人の歴史』中公新書、2010年
ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北美幸『公民権運動の歩兵たち-黒人差別と闘った白人女子学生の日記』彩流社、2016年
などをはじめとして、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフーマティブ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくこと良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語上級会話AI【夜】

担当者名 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面の「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『体験漢語口語教程 4』(陳作宏 主编; 趙永宏, 陳作宏 编) 高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中級口語教程 上册』(楊寄洲, 賈永芬), 北京大学出版社
『汉语中級口語教程 下册』(楊寄洲, 賈永芬), 北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。
- 1回 第1課(いろいろな場面でのあいさつ)①、②、③
 - 2回 第1課④; 第2課(買い物)①、②
 - 3回 第2課③、④
 - 4回 第3課(食生活)①、②、③
 - 5回 第3課④; 第4課(交通)①、②
 - 6回 第4課③、④
 - 7回 第5課(トラブルの解決)①、②、③
 - 8回 第5課④; 第6課(通信手段)①、②
 - 9回 第6課③、④
 - 10回 中間復習
 - 11回 第7課(装飾の文化)①、②、③
 - 12回 第7課④; 第8課(季節)①、②
 - 13回 第8課③、④
 - 14回 第9課(スポーツ)①、②、③
 - 15回 第9課④; 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。事前準備と事後復習をしっかりすること。
コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AII 【夜】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『体験漢語口語教程 4』(陳作宏 主編; 趙永宏, 陳作宏 編) 高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中級口語教程 上册』(楊寄洲, 賈永芬)、北京大学出版社
『汉语中級口語教程 下册』(楊寄洲, 賈永芬)、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。

1回 第10課(健康と生活習慣)①、②、③
2回 第10課④; 第11課(旅行)①、②
3回 第11課③、④
4回 第12課(美意識)①、②、③
5回 第12課④; 中間復習
6回 第13課(学習方法)①、②、③
7回 第13課④; 第14課(就職)①、②
8回 第14課③、④
9回 第15課(祝日)①、②、③
10回 第15課、④; 第16課(教育)①、②
11回 第16課③、④
12回 第17課(伝統文化)①、②、③
13回 第17課④、第18課(海外生活)①、②
14回 第18課③、④
15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。事前準備と事後復習をしっかりすること。
コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門
			IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 7回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。しかし、授業中に指示した資料に目を通し、以下の参考文献を含め関連する文献は、図書館などを活用して、各人の興味にあわせて読んでおくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者（または代替課題の未提出者）、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。ただし、自分で情報を集め、吟味する能力は問われます。講義で自分が学んだことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとする意識が大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生、および「異文化理解の基礎」（昨年度開講、本年度開講なし）を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 5回 古代ギリシャの身体観2【ソポクレス】
- 6回 古代ギリシャの身体観3【通時的概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 9回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会3【シユレーパー症例】
- 12回 身体・家族・社会4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。の中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1) 安全性と有効性
- 10回 キャンプ実習についての講義(2) 野外炊飯
- 11回 キャンプ実習についての講義(3) テント設営
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
- 中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。
本基礎演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジюмеを準備すること。
レジюмеには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジюмеの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認 (3) テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

(※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。)

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50 %
議論への参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (オリエンテーション)
- 第2回：北九州市の観光について
- 第3回：北九州市の歴史・文化1 門司
- 第4回：北九州市の歴史・文化2 小倉
- 第5回：北九州市の歴史・文化3 若戸
- 第6回：北九州市の歴史・文化4 八幡
- 第7回：北九州市と文学
- 第8回：北九州の観光素材1 世界遺産・近代化遺産
- 第9回：北九州の観光素材2 産業観光・工場夜景
- 第10回：北九州の観光素材3 北九州フィルムコミッション
- 第11回：企業と観光
- 第12回：観光案内ボランティア1
- 第13回：観光案内ボランティア2
- 第14回：観光案内ボランティア3
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に各回の詳細テーマを提示しますので、事前にテーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光資源や制度、取組みについて復習し、考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

レポートの書き方と入門：

本演習では、「調べ物をしてレポートの書く」ということがよくわからない学生（主として1年生）向けに、レポートの書き方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、比較的最近出版されたとなった文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、論点の見つけ方、関連資料の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

演習で用いるテキストは第1回目の出席者の興味関心にあわせて、第1回目の演習で決定します。候補は次の2冊です。

『風評被害』（関谷直也・光文社新書）

『民族とネイション』（塩川伸明・岩波新書）

たとえば、欧州難民問題やヨーロッパ社会の右傾化は、日本でも報道されます。これらについて知りたいと思ったとき、単に情報を調べるだけという段階から一歩進むため、問題を理解するための土台として、報道によって作られるイメージの問題（前者）やそもそも民族やナショナリズムとは何か（後者）という議論を扱いたいと思います。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会

○専修大学出版企画委員会（編）2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

○白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは？今学期のテキストについての相談
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本をどう活用するのか？
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけかた
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 レポート最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・毎年この演習は1学期に開講していましたが、今年度は2学期開講で、レポートの書き方に特化したものとします。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード /Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ行き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年

○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。

なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 A1【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIを履修済みであることが望ましい。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421 Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421 Lab. が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
- 中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。

なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

BI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習BI	GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に与えられた課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BⅡ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) A I、A II、
B I履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード /Keywords

動物園

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に關係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき關係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石） 【絶滅危惧】【多様性の保全】
- 6回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 9回 化石が語る魚類の進化（藪本） 【魚類化石】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義（下村） 【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（菱島） 【分類】【学名】
- 12回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 13回 タイトル未定
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1回目の博物館見学は10月15日(日)、2回目は11月以降各自で自由に行う。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質（無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生物物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書 /Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講 -
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8%） / 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2 C3043

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著（丸善）¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
- 2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
- 3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
- 4) 3章補足 プリント(+14章一部) 界面とコロイド・ゲル(分子とマクロ物質の境界領域で)。
- 5) 5章 元素の80%は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足: 無機化合物、ガラス、コンクリート
- 6) 4章、12章: 酸・塩基、酸化・還元 - 電池
- 7) 4章、12章: 44章 炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章 電気ってなんだろう? - 発光と化学エネルギー -
- 8) 6章 有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
- 9) 11章 プラスチックってなんだろう? - 高分子の化学 -
- 10) 7章 生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
- 11) 9章、10章: 9章 私たちの食べているもの - 食品の化学 -
10章 毒と薬は同じもの? - 医薬品と毒物の化学 -
- 12) 8章 シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
- 13) 13章 原子力と電力の関係って? - 原子力と放射線の化学 -
- 14) 15章 環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。授業で出たり、一般に見られる化学的現象とその理解を結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など)20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基
電池、化学反応、アミノ酸、糖、資質、拡散、温暖化物質、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、グループ分け
2. 心理学とは NHK大心理学実験 研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有 GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】

※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作上げるものです。詳細は講義中に説明します。

※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合(講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等)による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グループ課題(レポートおよびポスター)作成のために必要。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。

主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。

主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2016年改訂版 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 7回 環境首都検定に向けて (外部講師)
- 8回 施設見学・環境ミュージアム
- 9回 小テスト (日高)
- 10回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 11回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 12回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 13回 施設見学・エコタウン
- 14回 環境問題に関するシンポジウム (外部講師)
- 15回 環境問題と学生の取り組み (421Lab・村江)

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績 (40%)、小テストおよび授業中の課題 (60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は 11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は 12月3日（日）
- ・ エコタウン（バスツアー）は 12月27日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。

* 授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、北九州市

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
- 末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 6回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 7回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 8回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拜・本覚思想）
- 9回 神道について1（日本の神と祭り）
- 10回 神道について2（神道の成立）
- 11回 神道について3（神仏習合の教説）
- 12回 神道について3（神仏習合の諸相）
- 13回 日本宗教の特色1（神道と仏教の共存）
- 14回 日本宗教の特色2（神仏隔離と近代の神仏分離）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 30%

私たちと宗教【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を自分で読んでいくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小小木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトルの哲学】
- 6回 実存の思想(5)【サルトルの文学】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 実存の思想(7)【補足】
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(漆原)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(漆原)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 (予定)外部講師による特別講義
- 第11回 認知発達とコミュニケーション(松田)
- 第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス(松田)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(漆原)

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上げさせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司 劇的想像力について
4. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
5. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎 不在を追いかけて
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. ウォールター・デ・マリア わたしに電話をください
9. アネット・メッサジエ 聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. ソフィー・カル フィクションとしての写真
12. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
13. 山口圭介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 60%
レポート(学期末) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 2学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む
			LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第3回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第4回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第5回 イギリス文学への誘い(木原謙一)
- 第6回 イギリス文学のメッセージ性・まとめ(木原謙一)
- 第7回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第8回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第9回 まとめ(藤崎祐二)
- 第10回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第11回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題（生命倫理と法）]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましよう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ7 - フロム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ボトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という概念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 法と道徳について
- 第 3 回 殺人する自由はあるか？一人権保障の限界
- 第 4 回 行政活動と法治主義
- 第 5 回 国際社会と法-国際行政の観点から
- 第 6 回 犯罪とは何か
- 第 7 回 刑罰とは何か
- 第 8 回 性差別と暴力~セクシャル・ ハラスメントとドメスティック・ バイオレンス
- 第 9 回 家族とは何か
- 第10回 担保とは何か
- 第11回 契約とは何か
- 第12回 商取引における不正競争と法
- 第13回 企業形態と法
- 第14回 民事訴訟とは何か
- 第15回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がますます深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'17』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング（１）【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング（２）【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成（実習）２【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	
		市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 問題事例の検討（1）【優生学】
- 10回 問題事例の検討（2）【殺人行為】
- 11回 問題事例の検討（3）【まとめ】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【貧困問題】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやSNSが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う (社会部記者)
- 【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材 (社会部デスク)
- 【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 【第6回】デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (メディアラボ部員)
- 【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える (報道センター記者)
- 【第14回】働く現場とは / (生活特報部デスク)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」(メディアを読み解く力)ならびに現代社会を解読する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナルリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス、世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第12回 李 日韓関係の展開(1) 【脱植民地化】【脱帝国化】【残された問題】
- 第13回 李 日韓関係の展開(2) 【安全保障】【(脱)冷戦】【朝鮮半島問題】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回)100%

現代の国際情勢【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発券・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【こども食堂】	担当：原田・三宅
第8回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第11回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回	グループワーク(アクティビティ作り) を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【貿易保護政策】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【アベノミクス】【金融市場】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(1)【大企業と財務報告】
- 11回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(2)【国際会計基準IFRS】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは学習支援フォルダにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			エスニシティと多文化社会
			IRL001F

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 前近代東アジアの伝統世界
- 3回 日本の近代と国民国家の問題点
- 4回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 5回 新渡戸稲造の『武士道』
- 6回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 7回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 8回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 9回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 10回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 11回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 12回 「国語」とは何か
- 13回 網野善彦と日本史の多様性
- 14回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、またボーイスカウト、NHK設立にも貢献した、多彩な経歴を持つ人物である。後藤の卓抜した先見性と行動力、リーダーシップは戦前から現代に至るまで人気があり、高く評価されてきた。本講義では、後藤新平というその卓抜した人物の評伝を通して、日本の近代史についてより深く理解し、歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。また小説に描かれた後藤新平もあわせて読むことで、歴史小説と歴史研究との違いも考察するきっかけとしたい。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年〔復刻版〕
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』学陽書房、2013年
- この他は講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修業時代
- 第3回 愛知県病院長兼医学校長時代
- 第4回 衛生局時代(1)
- 第5回 衛生局時代(2)
- 第6回 台湾民政長官時代
- 第7回 南満州鉄道総裁時代
- 第8回 第2次桂内閣時代
- 第9回 第3次桂内閣時代
- 第10回 寺内正毅内閣時代
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米歴訪
- 第12回 東京市長時代
- 第13回 対ヨッフエ交渉
- 第14回 関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)と平常点(授業への参加態度、コメント等で20%)で総合的に評価する。

歴史の読み方II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義の前までに、参考文献に挙げた郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』（学陽書房、2013年）の指定された範囲を読んで来るのが望ましい。また授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー。
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみることに（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力	
		戦後の日本経済
		ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえて本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 歴史を学ぶ意義 -
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長期」と文化形成
- 第5回 2. 「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
 - 1. 戦後の人口問題
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口集中 - 農村から都市へ -
- 第9回 4. 「高度経済成長」と北九州
- 第10回 IV. 「幸せ」のモデル化とキャリア形成
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第11回 2. モデルのモデル - テレビを通じた文化の伝播 -
- 第12回 3. 「理想的」家族像の形成
- 第13回 4. 「勤労性」の背景 - 何が日本人を「勤労」にしたのか -
- 第14回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

戦後の日本経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回で「レシ」ユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が「必要に応じ」で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？
 - 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方
 - 第3回：「日本」とは何か？
 - 第4回：古代国家と天皇
 - 第5回：中世人の世界 -その法と社会-
 - 第6回：越境するヒトとモノ
 - 第7回：世界史のなかの「近世」
 - 第8回：歴史人口学の世界
 - 第9回：結婚と離婚 -江戸時代の夫婦のあり方-
 - 第10回：貨幣からみる近世社会
 - 第11回：日本の近代 -明治国家の建設-
 - 第12回：帝国主義の時代
 - 第13回：「日本人」と戦争
 - 第14回：戦後日本とわたしたちの時代
 - 第15回：まとめ -「歴史」を学ぶということ-
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（40%、小レポートなどを含む）、期末試験（60%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書を積極的に読むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝制度

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
高校世界史の教科書・資料集は有益です。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 農業立地論
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 日本農村の構造的変化
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 中心地理論
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 都市システム
- 第10回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 工業立地論
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 産業集積の実態
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 産業集積の実態
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行っており、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、欧米諸国の経済地誌をテーマとする。特に、世界都市や鉱工業地域など産業構造の変動が大きな地域を中心に取り上げる。欧米諸国の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 イギリス地誌: 連合王国としてのイギリス、戦後イギリスの展開など
- 第5回 ドイツ地誌: 石炭産地と工業地域の形成、グローバル化とドイツの諸都市など
- 第6回 スペイン地誌: スペインにおける民族主義、ビルバオの産業発展と地域再生など
- 第7回 フランス地誌: 首都パリと郊外、ライシテと移民問題など
- 第8回 イタリア地誌: イタリアの産業と南北問題、自動車工業都市トリノなど
- 第9回 北欧地誌: 福祉国家と国民負担、鉄鉱山都市キルナなど
- 第10回 ベネルクス地誌: ベルギーの言語と産業、環境意識とオランダの都市政策
- 第11回 スイス・ポーランド地誌: スイスの時計産業とジュラ地域、ポーランドの空間構造と経済
- 第12回 アメリカ合衆国地誌(1): アメリカ合衆国の産業発展、鉄鋼都市ピッツバーグ
- 第13回 アメリカ合衆国地誌(2): 自動車工業都市フリンツ
- 第14回 アメリカ合衆国地誌(3): アメリカの西部開拓、シリコンバレーの発展と展開
- 第15回 カナダ地誌: カナダ発展の歩み、カナダ経済・社会の諸特徴

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）
- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第6版』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定？
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウエイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
 この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウエイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活をする事は容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 スキル獲得テスト①
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 8回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
 - 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 導入実技
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
 - 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
 - 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 10回 戦術の説明
 - 11回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 12回 ダブルスの陣形の解説
 - 13回 ダブルスゲームの実践
 - 14回 ダブルスゲームのまとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第1位、「主体性」が7年連続で第2位となり、以下、第3位「協調性」、第4位「チャレンジ精神」であり、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

1. コミュニケーション能力
2. 幅広い視野・柔軟性
3. 失敗を恐れない志向性

<進め方と目標>

3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性

- 1回 全体ガイダンス【1】【2】【3】
- 2回 社会で求められる力【1】【2】【3】
- 3回 インターンシップや地域活動(先輩登壇)【1】【2】【3】
- 4回 傾聴【1】
- 5回 アサーション・トレーニング【1】
- 6回 アイデンティティ【1】【2】【3】
- 7回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】
- 8回 クリエイティブシンキング【1】【2】【3】
- 9回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】
- 10回 企業団体研究1【1】【2】
- 11回 企業団体研究2【1】【2】
- 12回 計画された偶発性【1】【2】【3】
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】
- 15回 本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2016年度> 株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス(一風堂) / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社(瀬祭)

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会(NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構(JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社(JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ(山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「サービス・ラーニング」への実際の参加を前提としています。したがって、「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動をしてもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」（1500字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は必須とします。受講にあたっては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って望むことを求めます。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II CAR281F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（聞く）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を楽しく読みながら、仲間と力を合わせたグループワークを行います。授業を通じて、「前へ踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も身につけられるようアシストします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊（講義開催週の水、木、金発行分、全15回分で税込み計1800円）を授業資料として活用します。1回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～8回 文章の読み方、書き方、取材方法などを学ぶ
- 第9～13回 深く考える力を身につける
- 第14～15回 まとめ（発表や講評）

通常のグループワークのほか、「まわしよみ新聞」や、「新聞でハテナソン」という新たな手法（論点や疑問点を整理して質問力を鍛える手法）を取り入れます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況や課題などを通じて総合的に判断します（100％）。[詳しくは1回目の授業で説明する予定です。]

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。読んで興味があることを見つけることが事前・事後学習になります。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II (グローバリゼーションと倫理的消費) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			教養特講II	SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「倫理的消費」について
- 第2回 フェアトレードの誕生と展開
- 第3回 フェアトレードの役割と課題
- 第4回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『もっと！フェアトレード』 (DVD) の上映とディスカッション
- 第5回 本田正之氏による講演：「フェアトレード試食会の取り組み」 (仮)
- 第6回 ファスト・ファッションとエシカル・ファッション
- 第7回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) の上映 (一部のみ) とディスカッション
- 第8回 宮下緑氏による講演：「フェアトレード・ショップの経営からみえてくるもの」 (仮)
- 第9回 紛争問題と私たちの暮らし
- 第10回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『スマホの真実』 (DVD) の上映とディスカッション
- 第11回 ペットボトルが生み出す環境破壊
- 第12回 「100円ショップ」の舞台裏
- 第13回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『徹底解剖！100円ショップ』の上映とディスカッション
- 第14回 八田麻理子氏による講演：「環境保全、貧困撲滅、フェアトレードをリンクさせる実践」 (仮)
- 第15回 全講義内容を踏まえてのまとめとディスカッション

教養特講II (グローバリゼーションと倫理的消費) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 (5回×20%) ・ ・ ・ 100%
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します (A4一枚程度) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

講義の後はDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード /Keywords

倫理的消費、フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度 : 60%
- ・ 授業における成果物 : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30~16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 中1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 人1 - 1 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class (人1 - 1 , 英
1 - 1 , 英
1 - 2 , 中)

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語I (中 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

英語I (中 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

英語II (中 1 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
- 3回 リスニング ユニット 5~10、リーディング ユニット 2
- 4回 リスニング ユニット 11~13、リーディング ユニット 3
- 5回 リスニング ユニット 14~16、リーディング ユニット 4
- 6回 リスニング ユニット 17~19、リーディング ユニット 5
- 7回 リスニング ユニット 20~22、リーディング ユニット 6
- 8回 リスニング ユニット 23~25、リーディング ユニット 7
- 9回 リスニング ユニット 26~28、リーディング ユニット 8
- 10回 リスニング ユニット 29~31、リーディング ユニット 9
- 11回 リスニング ユニット 32~34、リーディング ユニット 10
- 12回 リスニング ユニット 35~37、リーディング ユニット 11
- 13回 リスニング ユニット 38~40、リーディング ユニット 12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語II (中 1-B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (中 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 2, Cengage ISBN: 9814319449

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Asking for personal information.
- 3 回Giving directions
- 4 回Taking messages
- 5 回Ordering in restaurants
- 6 回Making recommendations
- 7 回Asking about preferences
- 8 回Offering alternatives
- 9 回Talking about schedules
- 1 0 回Complaining about problems
- 1 1 回Solving problems
- 1 2 回Travel itineraries
- 1 3 回Changing reservations
- 1 4 回Reacting to schedule changes
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意 /Remarks

なし

英語III (中 1-B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語IV (中 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present objective facts and subjective opinions on topics related to international relations and contemporary social and political issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Research of social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First group: Presentation and discussion
- 7回 Second Group: Presentation and discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (中2-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 中2 - A / 中2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 教科書の予習
事後： 重要語句、表現の再確認

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (中2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力を、TOEIC テスト用の練習問題を用いて向上させることにある。

TOEICテストは、コミュニケーションの手段として必要不可欠な「文法・語法・語彙・表現内容・発音」などの知識や理解がどのくらい身についているのかその習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、当授業では、TOEICテストの練習問題を通して、文法・語法の習得からTOEICに用いられる必須単語の語彙力、英語長文の読解力及び聴解力の向上へと英語受信力がバランスよく着実に身につけていくよう学習を進めていく。

授業の流れは、基本的に次の3部構成で行う。1. 基礎文法復習 2. リスニング学習 3. リーディング学習

毎年、当クラス受講生の前学期TOEIC取得スコアの平均は500点を超えている。当学期は、それを踏まえ、550~600点取得を目標に学習に取り組んでもらいたい。

教科書 /Textbooks

吉塚 弘 他著 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』 成美堂
¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

英語V (中 2 - B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
- 第2回 人称代名詞 / Unit 1 Restaurant
- 第3回 不定代名詞と再帰代名詞 / Unit 2 Entertainment
- 第4回 現在・過去の時制 / Unit 3 Business
- 第5回 現在完了 / Unit 4 Office
- 第6回 時・期間を表す前置詞 / Unit 5 Telephone
- 第7回 位置・場所を表す前置詞 / Unit 6 Letter & E-mail
- 第8回 数量形容詞 / Unit 7 Health
- 第9回 形容詞を作る接尾辞 / Unit 8 Bank & Post Office
- 第10回 副詞を作る接尾辞 / Unit 9 Travel (1)
- 第11回 分詞構文 / Unit 10 Travel (2)
- 第12回 比較 / Unit 11 Job Applications
- 第13回 受動態 / Unit 12 Shopping
- 第14回 関係詞 / Unit 13 Education
- 第15回 関係詞 / Unit 14 Education

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。1の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。2のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。3のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (中 2 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 教科書の予習
事後： 重要語句、表現の再確認

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

大学1年および2年の1学期と英語の基礎を習得してきた経緯を踏まえ、当授業では、リスニング→スピーキング、リーディング→ライティングの受信と発信の両方の学習方法を併用しながら英語力の養成を行っていく。

使用教材は前学期に使用したテキストを使い、それに加えて、リーディング力の更なる養成のために、随時問題練習のためのプリントを配布する。

TOEICクラス目標スコア 550～600点。

教科書 /Textbooks

吉塚 弘 他著 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』 成美堂 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
- 第2回 Unit 1 Restaurant
- 第3回 Unit 2 Entertainment
- 第4回 Unit 3 Business
- 第5回 Unit 4 Office
- 第6回 Unit 5 Telephone
- 第7回 Unit 6 Letter & E-mail
- 第8回 Unit 7 Health
- 第9回 Unit 8 Bank & Post Office
- 第10回 Unit 9 Travel (1)
- 第11回 Unit 10 Travel (2)
- 第12回 Unit 11 Job Applications
- 第13回 Unit 12 Shopping
- 第14回 Unit 13 Education
- 第15回 Unit 14 Education

英語VI (中 2 - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、1学期使用テキストの英語表現を単に解くだけで終わらせるのではなく、実際の表現手段として使えるように、日頃からリスニングに関しては何度も聴いて表現を覚え、リーディングに関しては、特にPart 6のletter やe-mail の文章を用件に合わせて文章が書けるように自己学習をしてもらいたい。英語を使っている場を想定して学習すれば、いろんな表現を取り入れようとする意識が働いてくる。期末テストでは、今学期に覚えた表現を対象にしたライティングの問題も設ける予定である。2学期は、日ごろから使える英語表現を増やすという意識で学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

Late homework will not be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed for each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be prepared to speak and be active in class. You will be graded in each class on how much you speak and how active you are during the class.

キーワード /Keywords

英語VII (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary cultural and environmental issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Cultural issues in the world
- 3 回 Research of cultural issues
- 4 回 Expansion of cultural issues
- 5 回 Consolidation of cultural issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Environmental issues in the world
- 1 0 回 Research of environmental issues
- 1 1 回 Expansion of environmental issues
- 1 2 回 Consolidation of environmental issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

英語VIII (中 2 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present objective facts and subjective opinions on topics related to international relations and contemporary social and political issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Social issues in the world
- 3 回 Research of social issues
- 4 回 Expansion of social issues
- 5 回 Consolidation of social issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Political issues in the world
- 1 0 回 Research of political issues
- 1 1 回 Expansion of political issues
- 1 2 回 Consolidation of political issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 英中国 3年 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文などを用いて、言語運用能力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。
授業では、グループワークやディスカッションを多く取り入れるため、積極的な参加が求められる。

教科書 /Textbooks

配布プリントなど

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業参加者の意見などを踏まえて変更される場合があります。】

- 1回 オリエンテーション、授業テーマについて①
- 2回 授業テーマについて②
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループワーク①
- 6回 グループワーク②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループワーク③
- 10回 グループワーク④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループワーク⑤
- 14回 グループワーク⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験あるいは期末課題...30%、平常の学習状況...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業内容などについて話しあいますので、初回授業に必ず出席すること。

英語IX (英中国 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 4
- 7回 Chapter 5
- 8回 Chapter 5
- 9回 Chapter 6
- 10回 Chapter 6
- 11回 Chapter 7
- 12回 Chapter 7
- 13回 Chapter 8
- 14回 Chapter 8
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート...50% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英中国 3 年 /English-Chinese 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
 Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語XII (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2〜3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートークキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートークキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートークキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2014年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
- 5回 子音（激音）字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音（濃音）字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といます】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%(小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作成すること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

初級文法に基づいた会話表現を中心に、聞き取り・発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。習った表現を活用して、自分自身の身の回りのことなど、基礎レベルでの会話をなめらかに表現できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2014年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3：B5判）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べる。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3：B5判）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習: 学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 韓国到着!【スキットを作ってみよう】
- 第4回目 第1課 韓国到着!【文法、練習問題】
- 第5回目 第2課 両替【スキットを作ってみよう】
- 第6回目 第2課 両替【文法、練習問題】
- 第7回目 第3課 道を尋ねる【スキットを作ってみよう】
- 第8回目 第3課 道を尋ねる【文法、練習問題】
- 第9回目 第4課 ホテルチェックイン【スキットを作ってみよう】
- 第10回目 第4課 ホテルチェックイン【文法、練習問題】
- 第11回目 第5課 フロントへの問い合わせ【スキットを作ってみよう】
- 第12回目 第5課 フロントへの問い合わせ【文法、練習問題】
- 第13回目 第6課 約束【スキットを作ってみよう】
- 第14回目 第6課 約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第7課 紹介【スキットを作ってみよう】
- 第4回目 第7課 紹介【文法、練習問題】
- 第5回目 第8課 食事の誘い【スキットを作ってみよう】
- 第6回目 第8課 食事の誘い【文法、練習問題】
- 第7回目 第9課 食堂で【スキットを作ってみよう】
- 第8回目 第9課 食堂で【文法、練習問題】
- 第9回目 第10課 カラオケ【スキットを作ってみよう】
- 第10回目 第10課 カラオケ【文法、練習問題】
- 第11回目 第11課 買い物【スキットを作ってみよう】
- 第12回目 第11課 買い物【文法、練習問題】
- 第13回目 第12課 見通し【スキットを作ってみよう】
- 第14回目 第12課 見通し【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲 ナウカ出版 2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音1: 母音(1)(2)、子音(1)(2)、アクセント、母音の発音規則(1)
- 3回 文字と発音2: 子音(3)(4)、硬子音と軟子音、母音の発音規則(2)、硬音記号と軟音記号
- 4回 文字と発音3: 有声子音と無声子音、子音の発音規則、正書法の規則
- 5回 文字と発音4: 数詞・月名などの発音練習、筆記体の書き方、かな音の転写法
- 6回 一課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 7回 一課後半 存在表現、場所の尋ね方、ロシア人の人名について、名前の尋ね方、練習問題
- 8回 二課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 9回 二課後半 人称代名詞、動詞の現在変化(1)、否定文、疑問文、名と愛称、練習問題
- 10回 三課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 11回 三課後半 名詞の性、所有代名詞、形容詞の変化(1)、指示代名詞、練習問題
- 12回 四課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 13回 四課後半 名詞の複数形、形容詞の変化(2)、名詞類の格変化、前置格、場所表現、練習問題
- 14回 五課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 15回 五課後半 動詞の現在変化(2)、対格、形容詞の変化(3)、不規則変化動詞、語順、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題 ... 20% 授業参加の積極性 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後、授業前に、これまで学習した重要な文法事項、語彙などの復習をすること。
小テスト、課題も課すので準備を怠らぬこと。

ロシア語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、このスタート時期の欠席は好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲 ナウカ出版 2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習
- 2回 六課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 3回 六課後半 生格、所有表現、疑問文、定代名詞、形容詞の名詞化、練習問題
- 4回 七課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 5回 七課後半 再帰動詞、動詞過去形、形容詞短語尾形、特殊変化動詞、練習問題
- 6回 八課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 7回 八課後半 与格、不定代名詞、可能性・必要性表現、第二前置格、不規則変化動詞、練習問題
- 8回 九課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 9回 九課後半 動詞の未来形、無人称文、不定法構文、複文、数量生格、不規則変化動詞、練習問題
- 10回 十課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 11回 十課後半 命令形、「・・が痛む」表現、否定生格、「何も・・ない」表現、練習問題
- 12回 十一課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 13回 十一課後半 造格、無変化名詞、行く先・起点を表す前置詞句、定動詞・不定動詞、練習問題
- 14回 十二課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後、および授業前に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
小テスト、課題も課すのでその準備も怠らぬこと。

ロシア語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲 ナウカ出版 2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 数詞・月名などの発音練習、【自分の名前をロシア語で書く】
- 6回 第1課① 【ロシア人の名前】、【私の名前は。。。です】
- 7回 第1課② 会話の練習
- 8回 第2課① 【私は手紙を読んでいます】、【動詞現在変化】
- 9回 第2課② 【私はロシア語を勉強しています】
- 10回 第2課③ 会話の練習
- 11回 第3課① 【家族の紹介】、【名詞の性】
- 12回 第3課② 【これは私たちの両親です】、【形容詞の性数変化①】
- 13回 第4課① 【私の鉛筆はどこにありますか？】、【名詞の前置格】
- 14回 第4課② 【名詞の複数形】、【形容詞の性数変化②】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【私は英語で話す】、【名詞の対格】
- 2回 第5課② 【私はスペイン語を勉強したいと思います】、【形容詞の性数変化②】
- 3回 第5課③ 会話の練習
- 4回 第6課① 【私は質問があります】、【名詞の生格①】
- 5回 第6課② 【名詞の生格②】
- 6回 第6課③ 会話の練習
- 7回 第7課① 【日常生活】、【-СЯ 動詞】
- 8回 第7課② 【動詞の過去形】
- 9回 第7課③ 会話の練習
- 10回 第8課① 【父が私のところに電話してきました】、【与格】
- 11回 第8課② 【。。。できる】、【。。。しなければならない。。。する必要がある】
- 12回 第8課③ 会話の練習
- 13回 第9課① 【動詞の未来形】、【無人称文】
- 14回 第9課② 【夏休みの計画】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 < ГИПНОЗ > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業参加の積極性 ... 50 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	ロシアのことわざ「自己抑制について」
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	ロシアの白樺
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴(1)
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴(2)
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	フィンランドへの旅
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻(1)
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻(2)
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	パブロフ「若者への書簡」
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	若いジャーナリストとの出会い
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	「花束」
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	「イワン・ベトロフとピッチとの対話」
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	チェーホフ短編「別荘で」
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】 物】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修してください。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞かるとき
- 8回 綴りを聞かるとき、英語の分る人を探さるとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞かるとき、道順・方向を聞かるとき、距離を聞かるとき
- 11回 時刻を聞かるとき、時間を聞かるとき、曜日を聞かるとき、日付を聞かるとき
- 12回 値段を聞かるとき、数量を聞かるとき、方法を聞かるとき、理由を聞かるとき
- 13回 目的を聞かるとき、住所を聞かるとき、出身地を聞かるとき、生年月日を聞かるとき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版社 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方（1課終了）
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 国籍を表す形容詞（2課終了）
- 5回目 名詞と不定冠詞
- 6回目 名詞と形容詞（3課終了）
- 7回目 第1群規則動詞の活用
- 8回目 定冠詞 疑問文（4課終了）
- 9回目 指示形容詞
- 10回目 動詞 <avoir> の活用 否定文（5課終了）
- 11回目 動詞 <aller> の活用
- 12回目 疑問代名詞 不規則動詞（6課終了）
- 13回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 14回目 人称代名詞強勢形（7課終了）
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 定冠詞の縮約
- 2回目 補語人称代名詞 (8課終了)
- 3回目 代名動詞
- 4回目 中性代名詞 y (9課終了)
- 5回目 非人称構文
- 6回目 命令形 感嘆文 (10課終了)
- 7回目 部分冠詞
- 8回目 中性代名詞 en (11課終了)
- 9回目 比較級
- 10回目 単純未来形 (12課終了)
- 11回目 複合過去 1
- 12回目 複合過去 2
- 13回目 半過去 (13課終了)
- 14回目 条件法現在
- 15回目 接続法現在 (14課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(紙でも電子でもよい)必携

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食文化を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 受動態
- 2回目 なぜ?—なぜなら、の表現 (1課終了)
- 3回目 形容詞の最上級
- 4回目 関係代名詞1 (2課終了)
- 5回目 関係代名詞2
- 6回目 勧誘と応答の表現 (3課終了)
- 7回目 疑問代名詞
- 8回目 不定代名詞 on (4課終了)
- 9回目 条件法現在
- 10回目 条件法過去 (5課終了)
- 11回目 代名動詞の複合過去
- 12回目 複合過去復習 過去分詞の性数一致 (6課終了)
- 13回目 半過去
- 14回目 指示代名詞 ce (7課終了)
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にはテキスト準拠ホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

辞書(紙でも電子でもよい)を必携すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版社 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 接続法現在
- 2回目 「~のように見える」の表現（8課終了）
- 3回目 位置を表す前置詞
- 4回目 勧誘・提案の表現3（9課終了）
- 5回目 現在分詞
- 6回目 ジェロンディフ（10課終了）
- 7回目 副詞について
- 8回目 時と場所の副詞（11課終了）
- 9回目 所有代名詞
- 10回目 お礼の表現（12課終了）
- 11回目 間接話法
- 12回目 時制の一致（13課終了）
- 13回目 強調構文
- 14回目 時を表す前置詞句（14課終了）
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を必携すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)、読解
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)、聞き取り
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
- 2) unité 6 : 誰 (後半)
- 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
- 4) unité 7 : 何 (前半)
- 5) unité 7 : 何 (後半)
- 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
- 7) unité 8 : どのように (前半)
- 8) unité 8 : どのように (後半)
- 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
- 10) unité 9 : 過去について (前半)
- 11) unité 9 : 過去について (後半)
- 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
- 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
- 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
- 15) 後期の復習、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト・・・ 40%
プレゼンテーション、レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞典が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

辞書は必須です。必ず授業の前に、単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、問題文(スペイン語)を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

スペイン語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 再帰動詞、無人称文など
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 6 同上
- 7 ここまでの復習
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 同上

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（I・II・III・IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと思っています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはず。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見いきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ビア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 レポートの作成(2)修正する
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(3)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% テスト...30% 授業への取り組み(発表や課題を含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

ビジネスケースメソッドを用いて、実在する企業のビジネスケースを題材とするグローバルイノベーションやローカライゼーションを考えて生きます。具体的には、ディスカッションを通して分析能力や批判力を養うと同時にコミュニケーションスキルも伸ばして生きます。つまり、内容と言語を統合した学習を行うことにより、より高度な日本語能力の育成も図っているのです。

実在する企業を題材とすることで学習内容がテキストに限定されずに、具体的かつリアリティのあるものになり、また最新の情報を授業の中に取り入れることも可能になります。そして、多国に展開するグローバル企業の日本における戦略を考察することで、日本の社会や文化に対する理解を新たにすることが期待されます。

教科書 /Textbooks

『ビジネスケースで学ぶ日本語』(筒井通雄監修・高見智子著、TheJapanTimes)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ケース・スタディ 日本企業事例集』(ハーバード・ビジネス・スクール著、ダイヤモンド社)
- 『日本型企業文化論-水平的集団主義の理論と実証』(佐藤和著、慶應義塾大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「1.日本コカ・コーラ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 3回 「1.日本コカ・コーラ」②読み物：内容理解
- 4回 「1.日本コカ・コーラ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 5回 「2. 任天堂」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 6回 「2. 任天堂」②読み物：内容理解
- 7回 「2. 任天堂」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 8回 「3.コーチ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 9回 「3.コーチ」②読み物：内容理解
- 10回 「3.コーチ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 11回 「4.ウォルマート」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 12回 「4.ウォルマート」②読み物：内容理解
- 13回 「4.ウォルマート」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 14回 「5.トヨタ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 15回 「5.トヨタ」②読み物：内容理解

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% ポートフォリオ評価...70%(自己評価30% ピア評価20% 教員評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業では、予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。各企業に対する理解を深めた後で、学びの統合を行います。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。

この授業ではポートフォリオを作成します。必ず、この授業専用のファイルを1つ用意してください。

(ポートフォリオの内容については1回目の授業オリエンテーションで詳しく説明します。)

日本語の文法・語彙などは、チューター学生とともに予習・復習をしてください。

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスについて専門的に学ぶ授業ではありませんが、誰もが知っている実際の企業について、情報を収集し、日本語で読み、日本語で考え、日本語で話す合うことによって、知識(内容)と言語の両方を伸ばすことのできる授業です。皆さんの、主体的かつ協同的な学習姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

内容言語統合学習 ケースメソッド 日本語運用能力 インプットからアウトプットへ グローバル企業

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

中国語初級会話I【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I

CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話I【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I

CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話I【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I

CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話II

CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店） ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話II

CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話II

CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編（中国書店） ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級総合I【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I

CHN200M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・ウォーミングアップ
 - 第2回 第1課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第3回 第1課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第4回 第2課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第5回 第2課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第6回 第3課の学習(1)-「课文」
 - 第7回 第3課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第8回 第3課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第9回 第4課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第10回 第4課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第11回 第5課の学習(1)-「课文」
 - 第12回 第5課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第13回 第5課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第14回 第6課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第15回 第6課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第6課まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I

CHN200M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・ウォーミングアップ
 - 第2回 第1課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第3回 第1課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第4回 第2課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第5回 第2課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第6回 第3課の学習(1)-「课文」
 - 第7回 第3課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第8回 第3課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第9回 第4課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第10回 第4課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第11回 第5課の学習(1)-「课文」
 - 第12回 第5課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第13回 第5課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第14回 第6課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第15回 第6課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第6課まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I

CHN200M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・ウォーミングアップ
 - 第2回 第1課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第3回 第1課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第4回 第2課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第5回 第2課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第6回 第3課の学習(1)-「课文」
 - 第7回 第3課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第8回 第3課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第9回 第4課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第10回 第4課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第11回 第5課の学習(1)-「课文」
 - 第12回 第5課の学習(2)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第13回 第5課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第14回 第6課の学習(1)-「课文」「词汇」「問題」
 - 第15回 第6課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第6課まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ

CHN210M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第2回 第7課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第3回 第8課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第4回 第8課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第5回 第9課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第6回 第9課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第7回 第10課の学習(1)-「课文」
 - 第8回 第10課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第9回 第10課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第10回 第11課の学習(1)-「课文」
 - 第11回 第11課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第12回 第11課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第13回 第12課の学習(1)-「课文」
 - 第14回 第12課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第15回 第12課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第7課～第12課を学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ

CHN210M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第2回 第7課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第3回 第8課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第4回 第8課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第5回 第9課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第6回 第9課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第7回 第10課の学習(1)-「课文」
 - 第8回 第10課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第9回 第10課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第10回 第11課の学習(1)-「课文」
 - 第11回 第11課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第12回 第11課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第13回 第12課の学習(1)-「课文」
 - 第14回 第12課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第15回 第12課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第7課～第12課を学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ

CHN210M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、

- ①一年生の時の学習事項の定着
 - ②新しい語法や表現の習得
 - ③語彙力のアップ
 - ④文章読解力の向上
 - ⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解
- などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解しながら、意味を取っていきます。

教科書に従って進めますが、「問題」「発音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴、白帝社、2001年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『誤用から学ぶ中国語・続編1―補語と副詞を中心に』（郭春貴、白帝社、2014年）
 - ・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
- ほか

中国語中級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第2回 第7課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第3回 第8課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第4回 第8課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第5回 第9課の学習(1)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第6回 第9課の学習(2)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第7回 第10課の学習(1)-「课文」
 - 第8回 第10課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第9回 第10課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第10回 第11課の学習(1)-「课文」
 - 第11回 第11課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第12回 第11課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
 - 第13回 第12課の学習(1)-「课文」
 - 第14回 第12課の学習(2)-「课文」「词汇」「问题」
 - 第15回 第12課の学習(3)-「语与与句型」「发音复习」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。第7課～第12課を学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (60%) + 課題 (40%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国作品講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読 I

LIT251M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近現代文学概説
- 第2回 エッセイを読む(1) [作者について]
- 第3回 エッセイを読む(2) [作品について]
- 第4回 エッセイを読む(3) [白話文について]、小テスト
- 第5回 書簡を読む(1) [作者について]
- 第6回 書簡を読む(2) [作品について]
- 第7回 書簡を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第8回 日記を読む(1) [作者について]
- 第9回 日記を読む(2) [作品について]
- 第10回 日記を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第11回 小品文を読む(1) [作者について]
- 第12回 小品文を読む(2) [作品について]
- 第13回 小品文を読む(3) [白話文学について]、小テスト
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国作品講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読 I

LIT251M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近現代文学概説
- 第2回 エッセイを読む(1) [作者について]
- 第3回 エッセイを読む(2) [作品について]
- 第4回 エッセイを読む(3) [白話文について]、小テスト
- 第5回 書簡を読む(1) [作者について]
- 第6回 書簡を読む(2) [作品について]
- 第7回 書簡を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第8回 日記を読む(1) [作者について]
- 第9回 日記を読む(2) [作品について]
- 第10回 日記を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第11回 小品文を読む(1) [作者について]
- 第12回 小品文を読む(2) [作品について]
- 第13回 小品文を読む(3) [白話文学について]、小テスト
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国作品講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読 I

LIT251M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近現代文学概説
- 第2回 エッセイを読む(1) [作者について]
- 第3回 エッセイを読む(2) [作品について]
- 第4回 エッセイを読む(3) [白話文について]、小テスト
- 第5回 書簡を読む(1) [作者について]
- 第6回 書簡を読む(2) [作品について]
- 第7回 書簡を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第8回 日記を読む(1) [作者について]
- 第9回 日記を読む(2) [作品について]
- 第10回 日記を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第11回 小品文を読む(1) [作者について]
- 第12回 小品文を読む(2) [作品について]
- 第13回 小品文を読む(3) [白話文学について]、小テスト
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国作品講読II 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読II

LIT252M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』ミネルヴァ書房、1997年

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
 - 第2回 小品文を読む(1) [小品文について]
 - 第3回 小品文を読む(2) [作品について]
 - 第4回 小品文を読む(3) [文学ジャンルについて]、小テスト
 - 第5回 短編小説を読む(1) [作者について]
 - 第6回 短編小説を読む(2) [作品について]
 - 第7回 短編小説を読む(3) [時代背景について]、小テスト
 - 第8回 文芸評論を読む(1) [作者について]
 - 第9回 文芸評論を読む(2) [作品について]
 - 第10回 文芸評論を読む(3) [文芸思潮について]、小テスト
 - 第11回 散文詩を読む(1) [作者について]
 - 第12回 散文詩を読む(2) [作品について]
 - 第13回 散文詩を読む(3) [白話文学について]、小テスト
 - 第14回 総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国作品講読II 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読II

LIT252M

授業の概要 /Course Description

<中国近現代文学作品を読む>

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』ミネルヴァ書房、1997年

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
 - 第2回 小品文を読む(1) [小品文について]
 - 第3回 小品文を読む(2) [作品について]
 - 第4回 小品文を読む(3) [文学ジャンルについて]、小テスト
 - 第5回 短編小説を読む(1) [作者について]
 - 第6回 短編小説を読む(2) [作品について]
 - 第7回 短編小説を読む(3) [時代背景について]、小テスト
 - 第8回 文芸評論を読む(1) [作者について]
 - 第9回 文芸評論を読む(2) [作品について]
 - 第10回 文芸評論を読む(3) [文芸思潮について]、小テスト
 - 第11回 散文詩を読む(1) [作者について]
 - 第12回 散文詩を読む(2) [作品について]
 - 第13回 散文詩を読む(3) [白話文学について]、小テスト
 - 第14回 総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国作品講読II 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読II

LIT252M

授業の概要 /Course Description

<中国近現代文学作品を読む>

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品（主に短編）の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○藤井省三、大木康『新しい中国文学史』ミネルヴァ書房、1997年

※その他については授業内で適宜案内をします。図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
- 第2回 小品文を読む(1) [小品文について]
- 第3回 小品文を読む(2) [作品について]
- 第4回 小品文を読む(3) [文学ジャンルについて]、小テスト
- 第5回 短編小説を読む(1) [作者について]
- 第6回 短編小説を読む(2) [作品について]
- 第7回 短編小説を読む(3) [時代背景について]、小テスト
- 第8回 文芸評論を読む(1) [作者について]
- 第9回 文芸評論を読む(2) [作品について]
- 第10回 文芸評論を読む(3) [文芸思潮について]、小テスト
- 第11回 散文詩を読む(1) [作者について]
- 第12回 散文詩を読む(2) [作品について]
- 第13回 散文詩を読む(3) [白話文学について]、小テスト
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めますが、進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国近現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 思想 / 生活 / 文化

中国語中級会話AⅠ【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話AⅠ

CHN220M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 自己紹介(講読)
- 2回 暗誦(1課) 第2課 家族(講読)
- 3回 暗誦(2課) 会話練習
- 4回 第3課 父母(講読)
- 5回 暗誦(3課) 第4課 友達(講読)
- 6回 暗誦(4課) 会話練習
- 7回 第5課 住居(講読)
- 8回 暗誦(5課) 第6課 通勤通学(講読)
- 9回 暗誦(6課) 会話練習
- 10回 第7課 飲物(講読)
- 11回 暗誦(7課) 第8課 休日(講読)
- 12回 暗誦(8課) 会話練習
- 13回 第9課 送り迎え-電話会話(講読)
- 14回 暗誦(9課) 第10課 病気(講読)
- 15回 暗誦(10課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AⅠ【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話AⅠ

CHN220M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------|---------------|
| 1回 | 第1課 | 自己紹介(講読) |
| 2回 | 暗誦(1課) | 第2課 家族(講読) |
| 3回 | 暗誦(2課) | 会話練習 |
| 4回 | 第3課 | 父母(講読) |
| 5回 | 暗誦(3課) | 第4課 友達(講読) |
| 6回 | 暗誦(4課) | 会話練習 |
| 7回 | 第5課 | 住居(講読) |
| 8回 | 暗誦(5課) | 第6課 通勤通学(講読) |
| 9回 | 暗誦(6課) | 会話練習 |
| 10回 | 第7課 | 飲物(講読) |
| 11回 | 暗誦(7課) | 第8課 休日(講読) |
| 12回 | 暗誦(8課) | 会話練習 |
| 13回 | 第9課 | 送り迎え-電話会話(講読) |
| 14回 | 暗誦(9課) | 第10課 病気(講読) |
| 15回 | 暗誦(10課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AⅠ【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話AⅠ

CHN220M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 自己紹介(講読)
- 2回 暗誦(1課) 第2課 家族(講読)
- 3回 暗誦(2課) 会話練習
- 4回 第3課 父母(講読)
- 5回 暗誦(3課) 第4課 友達(講読)
- 6回 暗誦(4課) 会話練習
- 7回 第5課 住居(講読)
- 8回 暗誦(5課) 第6課 通勤通学(講読)
- 9回 暗誦(6課) 会話練習
- 10回 第7課 飲物(講読)
- 11回 暗誦(7課) 第8課 休日(講読)
- 12回 暗誦(8課) 会話練習
- 13回 第9課 送り迎え-電話会話(講読)
- 14回 暗誦(9課) 第10課 病気(講読)
- 15回 暗誦(10課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

中国語中級会話AI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話A II

CHN221M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------|---------------|
| 1回 | 第11課 | 入院 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (11課) | 第12課 旅行 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (12課) | 会話練習 |
| 4回 | 第13課 | 訃報 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (13課) | 第14課 放送 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (14課) | 会話練習 |
| 7回 | 第15課 | 手紙 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (15課) | 第16課 ローン (講読) |
| 9回 | 暗誦 (16課) | 会話練習 |
| 10回 | 第17課 | 天候 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (17課) | 第18課 繁華街 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (18課) | 会話練習 |
| 13回 | 第19課 | スポーツ (講読) |
| 14回 | 暗誦 (19課) | 第20課 受験 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (20課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話A II

CHN221M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------|-----------------|
| 1回 | 第11課 | 入院 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (11課) | 第12課 旅行 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (12課) | 会話練習 |
| 4回 | 第13課 | 訃報 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (13課) | 第14課 放送 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (14課) | 会話練習 |
| 7回 | 第15課 | 手紙 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (15課) | 第16課 ローン (講読) |
| 9回 | 暗誦 (16課) | 会話練習 |
| 10回 | 第17課 | 天候 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (17課) | 第18課 繁華街 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (18課) | 会話練習 |
| 13回 | 第19課 | スポーツ (講読) |
| 14回 | 暗誦 (19課) | 第20課 受験 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (20課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話A II

CHN221M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 入院 (講読)
- 2回 暗誦 (11課) 第12課 旅行 (講読)
- 3回 暗誦 (12課) 会話練習
- 4回 第13課 訃報 (講読)
- 5回 暗誦 (13課) 第14課 放送 (講読)
- 6回 暗誦 (14課) 会話練習
- 7回 第15課 手紙 (講読)
- 8回 暗誦 (15課) 第16課 ローン (講読)
- 9回 暗誦 (16課) 会話練習
- 10回 第17課 天候 (講読)
- 11回 暗誦 (17課) 第18課 繁華街 (講読)
- 12回 暗誦 (18課) 会話練習
- 13回 第19課 スポーツ (講読)
- 14回 暗誦 (19課) 第20課 受験 (講読)
- 15回 暗誦 (20課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話B I

CHN222M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京（本文）
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜（本文）
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮（本文）
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋（本文）
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都（本文）
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸（本文）
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪（本文）
- 15回 第八課 会話「上海和成都是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話B I

CHN222M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京（本文）
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜（本文）
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮（本文）
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋（本文）
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都（本文）
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸（本文）
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪（本文）
- 15回 第八課 会話「上海和成都是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話B I

CHN222M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」練習
- 2回 第二課 東京（本文）
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」練習
- 4回 第三課 横浜（本文）
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮（本文）
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋（本文）
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」練習
- 10回 第六課 京都（本文）
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」練習
- 12回 第七課 奈良と神戸（本文）
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」練習
- 14回 第八課 大阪（本文）
- 15回 第八課 会話「上海和成都是友好城市」練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話BⅡ

CHN223M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（本文）
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州（本文）
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡（本文）
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀（本文）
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎（本文）
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国（本文）
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了，真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（本文）
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B II 【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話B II

CHN223M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（本文）
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州（本文）
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡（本文）
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀（本文）
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎（本文）
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国（本文）
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了，真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（本文）
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B II 【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について、自分の意見を明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話B II

CHN223M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（本文）
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州（本文）
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡（本文）
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀（本文）
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎（本文）
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国（本文）
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了，真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（本文）
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I

CHN224M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作 (I)』 (对外汉语长期进修教材) 蔡 永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』 趙 建華 祝 秉耀 編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第1課 我的朋友----李明 (1)	写作训练重点：人物介绍
2回	第1課 我的朋友----李明 (2)	上次作文讲评
	第2課 来到中国 (1)	写作训练重点：介绍出国后发生的事情
3回	第2課 来到中国 (2)	上次作文讲评
4回	第3課 上班族的一天 (1)	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活
5回	第3課 上班族的一天 (2)	上次作文讲评
6回	第4課 第一印象可靠吗 (1)	写作训练重点：谈谈对.....的看法
7回	第4課 第一印象可靠吗 (2)	上次作文讲评
8回	第5課 我的故乡 (1)	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活
9回	第5課 我的故乡 (2)	上次作文讲评
10回	第6課 我的恋爱史 (1)	写作训练重点：简单介绍自己的经历
11回	第6課 我的恋爱史 (2)	上次作文讲评
12回	第7課 搬家 (1)	写作训练重点：介绍一件事情的过程
13回	第7課 搬家 (2)	上次作文讲评
14回	第8課 到底发生了什么事 (1)	写作训练重点：限时完成作文
15回	第8課 到底发生了什么事 (2)	上次作文讲评

中国語中級作文I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I

CHN224M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作 (I)』 (对外汉语长期进修教材) 蔡 永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』 趙 建華 祝 秉耀 編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第1課	我的朋友----李明 (1)	写作训练重点：人物介绍
2回	第1課	我的朋友----李明 (2)	上次作文讲评
	第2課	来到中国 (1)	写作训练重点：介绍出国后发生的事情
3回	第2課	来到中国 (2)	上次作文讲评
4回	第3課	上班族的一天 (1)	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活
5回	第3課	上班族的一天 (2)	上次作文讲评
6回	第4課	第一印象可靠吗 (1)	写作训练重点：谈谈对.....的看法
7回	第4課	第一印象可靠吗 (2)	上次作文讲评
8回	第5課	我的故乡 (1)	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活
9回	第5課	我的故乡 (2)	上次作文讲评
10回	第6課	我的恋爱史 (1)	写作训练重点：简单介绍自己的经历
11回	第6課	我的恋爱史 (2)	上次作文讲评
12回	第7課	搬家 (1)	写作训练重点：介绍一件事情的过程
13回	第7課	搬家 (2)	上次作文讲评
14回	第8課	到底发生了什么事 (1)	写作训练重点：限时完成作文
15回	第8課	到底发生了什么事 (2)	上次作文讲评

中国語中級作文I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I

CHN224M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作 (I)』 (对外汉语长期进修教材) 蔡 永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』 趙 建華 祝 秉耀 編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第1課	我的朋友----李明 (1)	写作训练重点：人物介绍
2回	第1課	我的朋友----李明 (2)	上次作文讲评
	第2課	来到中国 (1)	写作训练重点：介绍出国后发生的事情
3回	第2課	来到中国 (2)	上次作文讲评
4回	第3課	上班族的一天 (1)	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活
5回	第3課	上班族的一天 (2)	上次作文讲评
6回	第4課	第一印象可靠吗 (1)	写作训练重点：谈谈对.....的看法
7回	第4課	第一印象可靠吗 (2)	上次作文讲评
8回	第5課	我的故乡 (1)	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活
9回	第5課	我的故乡 (2)	上次作文讲评
10回	第6課	我的恋爱史 (1)	写作训练重点：简单介绍自己的经历
11回	第6課	我的恋爱史 (2)	上次作文讲评
12回	第7課	搬家 (1)	写作训练重点：介绍一件事情的过程
13回	第7課	搬家 (2)	上次作文讲评
14回	第8課	到底发生了什么事 (1)	写作训练重点：限时完成作文
15回	第8課	到底发生了什么事 (2)	上次作文讲评

中国語中級作文I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ

CHN225M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中級写作(Ⅰ)』(对外汉语长期进修教材)蔡永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第9課 关于出行方式的调查(1) 写作训练重点: 简单图表分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 上次作文讲评
- 3回 第10課 愉快的周末(1) 写作训练重点: 谈谈自己的生活
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 上次作文讲评
- 5回 第11課 橘子皮的用途(1) 写作训练重点: 介绍某物的用途
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 上次作文讲评
- 7回 第12課 语言学家赵元任(1) 写作训练重点: 介绍人物
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 上次作文讲评
- 9回 第13課 如果我是公司老板(1) 写作训练重点: 说说你的想法和计划
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 上次作文讲评
- 11回 第14課 一件小事(1) 写作训练重点: 写一件小事
- 12回 第14課 一件小事(2) 上次作文讲评
- 13回 第15課 你真是个好孩子(1) 写作训练重点: 简单说明意见和看法
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取組み: 10%

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ

CHN225M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中級写作(1)』(对外汉语长期进修教材)蔡永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第9課 关于出行方式的调查(1) 写作训练重点: 简单图表分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 上次作文讲评
- 3回 第10課 愉快的周末(1) 写作训练重点: 谈谈自己的生活
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 上次作文讲评
- 5回 第11課 橘子皮的用途(1) 写作训练重点: 介绍某物的用途
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 上次作文讲评
- 7回 第12課 语言学家赵元任(1) 写作训练重点: 介绍人物
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 上次作文讲评
- 9回 第13課 如果我是公司老板(1) 写作训练重点: 说说你的想法和计划
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 上次作文讲评
- 11回 第14課 一件小事(1) 写作训练重点: 写一件小事
- 12回 第14課 一件小事(2) 上次作文讲评
- 13回 第15課 你真是个好孩子(1) 写作训练重点: 简单说明意见和看法
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取組み: 10%

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ

CHN225M

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中級写作(1)』(对外汉语长期进修教材)蔡永強編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第9課 关于出行方式的调查(1) 写作训练重点: 简单图表分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 上次作文讲评
- 3回 第10課 愉快的周末(1) 写作训练重点: 谈谈自己的生活
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 上次作文讲评
- 5回 第11課 橘子皮的用途(1) 写作训练重点: 介绍某物的用途
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 上次作文讲评
- 7回 第12課 语言学家赵元任(1) 写作训练重点: 介绍人物
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 上次作文讲评
- 9回 第13課 如果我是公司老板(1) 写作训练重点: 说说你的想法和计划
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 上次作文讲评
- 11回 第14課 一件小事(1) 写作训练重点: 写一件小事
- 12回 第14課 一件小事(2) 上次作文讲评
- 13回 第15課 你真是个好孩子(1) 写作训练重点: 简单说明意见和看法
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取組み: 10%

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級リスニングI【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニング I

CHN226M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一課 买东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一課 买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二課 看病(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二課 看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三課 去餐厅吃饭(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三課 去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四課 问路(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四課 问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五課 寄东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五課 寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六課 旅游(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六課 旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七課 修理(1)	一. 生詞 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七課 修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングI【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニング I

CHN226M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一課 买东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一課 买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二課 看病(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二課 看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三課 去餐厅吃饭(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三課 去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四課 问路(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四課 问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五課 寄东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五課 寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六課 旅游(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六課 旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七課 修理(1)	一. 生詞 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七課 修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングI【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニング I

CHN226M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一課 买东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一課 买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二課 看病(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二課 看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三課 去餐厅吃饭(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三課 去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四課 问路(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四課 问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五課 寄东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五課 寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六課 旅游(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六課 旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七課 修理(1)	一. 生詞 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七課 修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅡ

CHN227M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八課 休闲娱乐(1) 一.生词 二.格式与范句 三.热身练习
- 2回 第八課 休闲娱乐(2) 四.听课文做练习 五.泛听练习
- 3回 第九課 谈学习(1) 一.生词 二.格式范句 三.热身练习
- 4回 第九課 谈学习(2) 四.听课文做练习
- 5回 第九課 谈学习(3) 五.泛听练习
- 6回 第十課 家庭(1) 一.生词 二.格式与范句 三.热身练习
- 7回 第十課 家庭(2) 四.听课文做练习
- 8回 第十課 家庭(3) 五.泛听练习
- 9回 第十一課 北京见闻(1) 一.生词 二.格式与范句 三.热身练习
- 10回 第十一課 北京见闻(2) 四.听课文做练习
- 11回 第十一課 北京见闻(3) 五.泛听练习
- 12回 第十二課 社会问题(1) 一.生词 二.格式与范句 三.热身练习
- 13回 第十二課 社会问题(2) 四.听课文做练习
- 14回 第十二課 社会问题(3) 五.泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅡ

CHN227M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八課 休闲娱乐(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第八課 休闲娱乐(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第九課 谈学习(1) 一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
- 4回 第九課 谈学习(2) 四. 听课文做练习
- 5回 第九課 谈学习(3) 五. 泛听练习
- 6回 第十課 家庭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 7回 第十課 家庭(2) 四. 听课文做练习
- 8回 第十課 家庭(3) 五. 泛听练习
- 9回 第十一課 北京见闻(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第十一課 北京见闻(2) 四. 听课文做练习
- 11回 第十一課 北京见闻(3) 五. 泛听练习
- 12回 第十二課 社会问题(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 13回 第十二課 社会问题(2) 四. 听课文做练习
- 14回 第十二課 社会问题(3) 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅡ

CHN227M

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』 毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|-----|------|---------|------------------------|
| 1回 | 第八課 | 休闲娱乐(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 2回 | 第八課 | 休闲娱乐(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 3回 | 第九課 | 谈学习(1) | 一. 生詞 二. 格式范句 三. 热身练习 |
| 4回 | 第九課 | 谈学习(2) | 四. 听课文做练习 |
| 5回 | 第九課 | 谈学习(3) | 五. 泛听练习 |
| 6回 | 第十課 | 家庭(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 7回 | 第十課 | 家庭(2) | 四. 听课文做练习 |
| 8回 | 第十課 | 家庭(3) | 五. 泛听练习 |
| 9回 | 第十一課 | 北京见闻(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 10回 | 第十一課 | 北京见闻(2) | 四. 听课文做练习 |
| 11回 | 第十一課 | 北京见闻(3) | 五. 泛听练习 |
| 12回 | 第十二課 | 社会问题(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 13回 | 第十二課 | 社会问题(2) | 四. 听课文做练习 |
| 14回 | 第十二課 | 社会问题(3) | 五. 泛听练习 |
| 15回 | 综合复习 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文 I

CHN324M

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、どんな形態の中国語文章でも書ける能力を養う。この授業は中国語の語句の使い方、ニュアンス、文法を説明し、応用文、記述文の書き方、注意点を習う。

教科書 /Textbooks

プリント配布（『汉语作文快易通 HSK作文指南』夏小芸 範偉編著 北京大学出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 一封给老师的信 写信和作文的基本格式 一些常用标点 练习
- 2回 第2課 一封求职信(1) 书面语和口语
- 3回 第2課 一封求职信(2) 练习
- 4回 第3課 一封感谢信 副词的位置 几组常用副词的简单比较 练习
- 5回 第4課 申请书(1) 比较句 几个常用副词的简单比较
- 6回 第4課 申请书(2) 练习
- 第5課 小型调查报告(1) 某个时间和一段时间 某次和一些次
- 7回 第5課 小型调查报告(2) 练习
- 8回 第6課 我的爱好 “是”和“是……的” 练习
- 9回 第7課 辣椒的故事(1) 动词、形容词、量词的重叠
- 10回 第7課 辣椒的故事(2) 练习
- 11回 第8課 看自行车的老人 肖像描写的几个方面和常用词语 练习
- 12回 第9課 我们的校园(1) 景物描写的方法
- 13回 第9課 我们的校园(2) 练习
- 14回 第10課 记一次鼓号比赛(1) 记叙文中一些常用的修辞手法
- 15回 第10課 记一次鼓号比赛(2) 练习

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

中国語上級作文I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文 I

CHN324M

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、どんな形態の中国語文章でも書ける能力を養う。この授業は中国語の語句の使い方、ニュアンス、文法を説明し、応用文、記述文の書き方、注意点を習う。

教科書 /Textbooks

プリント配布（『汉语作文快易通 HSK作文指南』夏小芸 範偉編著 北京大学出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 一封给老师的信 写信和作文的基本格式 一些常用标点 练习
- 2回 第2課 一封求职信(1) 书面语和口语
- 3回 第2課 一封求职信(2) 练习
- 4回 第3課 一封感谢信 副词的位置 几组常用副词的简单比较 练习
- 5回 第4課 申请书(1) 比较句 几个常用副词的简单比较
- 6回 第4課 申请书(2) 练习
- 第5課 小型调查报告(1) 某个时间和一段时间 某次和一些次
- 7回 第5課 小型调查报告(2) 练习
- 8回 第6課 我的爱好 “是”和“是……的” 练习
- 9回 第7課 辣椒的故事(1) 动词、形容词、量词的重叠
- 10回 第7課 辣椒的故事(2) 练习
- 11回 第8課 看自行车的老人 肖像描写的几个方面和常用词语 练习
- 12回 第9課 我们的校园(1) 景物描写的方法
- 13回 第9課 我们的校园(2) 练习
- 14回 第10課 记一次鼓号比赛(1) 记叙文中一些常用的修辞手法
- 15回 第10課 记一次鼓号比赛(2) 练习

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

中国語上級作文I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文Ⅱ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文Ⅱ

CHN325M

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、どんな形態の中国語文章でも書ける能力を養う。この授業は中国語の語句の使い方、ニュアンス、文法を説明し、説明文、小論文の書き方、注意点を習う。

教科書 /Textbooks

プリント配布（『汉语作文快易通 HSK作文指南』夏小芸 範偉編著 北京大学出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 生活小窍门——巧揭照片 把字句 练习
- 2回 第12課 怎样做紫菜包饭(1) 结果补语、趋向补语、动量和时量补语
- 3回 第12課 怎样做紫菜包饭(2) 练习
- 4回 第13課 羡慕 “了”的用法
- 5回 第14課 韩国最重要的两大节日(1) “的”的用法和多项定语
- 6回 第14課 韩国最重要的两大节日(2) 练习
- 第15課 《致加西亚的信》(1) “被”字句
- 7回 第15課 《致加西亚的信》(2) 练习
- 8回 第16課 观《甜蜜蜜》有感 关于介词
- 9回 第17課 保持平衡——从《鹿和狼》一文所想到的(1) 议论文常用的一些修辞方法
- 10回 第17課 保持平衡——从《鹿和狼》一文所想到的(2) 练习
- 11回 第18課 坚持到底就是胜利 设问和反问
- 12回 第19課 谈历史(1) 议论文中一些常用连词格式
- 13回 第19課 谈历史(2) 练习
- 14回 第20課 安乐死不应盲目合法化(1) 成语、俗语、名言、警句
- 15回 第20課 安乐死不应盲目合法化(2) 练习

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

中国語上級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文Ⅱ【昼】

担当者名 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について文章を書き、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文Ⅱ

CHN325M

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、どんな形態の中国語文章でも書ける能力を養う。この授業は中国語の語句の使い方、ニュアンス、文法を説明し、説明文、小論文の書き方、注意点を習う。

教科書 /Textbooks

プリント配布（『汉语作文快易通 HSK作文指南』夏小芸 範偉編著 北京大学出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 生活小窍门——巧揭照片 把字句 练习
- 2回 第12課 怎样做紫菜包饭(1) 结果补语、趋向补语、动量和时量补语
- 3回 第12課 怎样做紫菜包饭(2) 练习
- 4回 第13課 羡慕 “了”的用法
- 5回 第14課 韩国最重要的两大节日(1) “的”的用法和多项定语
- 6回 第14課 韩国最重要的两大节日(2) 练习
- 第15課 《致加西亚的信》(1) “被”字句
- 7回 第15課 《致加西亚的信》(2) 练习
- 8回 第16課 观《甜蜜蜜》有感 关于介词
- 9回 第17課 保持平衡——从《鹿和狼》一文所想到的(1) 议论文常用的一些修辞方法
- 10回 第17課 保持平衡——从《鹿和狼》一文所想到的(2) 练习
- 11回 第18課 坚持到底就是胜利 设问和反问
- 12回 第19課 谈历史(1) 议论文中一些常用连词格式
- 13回 第19課 谈历史(2) 练习
- 14回 第20課 安乐死不应盲目合法化(1) 成语、俗语、名言、警句
- 15回 第20課 安乐死不应盲目合法化(2) 练习

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

中国語上級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニング I

CHN326M

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・20% 日常の学習状況・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニング I

CHN326M

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・20% 日常の学習状況・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングⅡ

CHN327M

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・20% 日常の学習状況・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	中国語力	● 中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングⅡ

CHN327M

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・20% 日常の学習状況・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

研究演習 A 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学研究 >

本演習では、魯迅や周作人をはじめとする中国近現代文学を代表する作家や作品、評論の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼ね備える卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。

* 研究演習B(後期) : 仮テーマに基づいて文献を選択し、その内容を紹介してもらいます。その後、短編作品の輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 丸山昇、伊藤虎丸、新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
- 藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- 銭理群、温儒敏、吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)

※その他については授業内で随時紹介します。

研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：中国近現代文学作品に見る「性」（講義）、担当決め
- 第2回 魯迅について（講義）、魯迅『故郷』精読（1）
- 第3回 魯迅『故郷』精読（2）
- 第4回 魯迅『故郷』精読（3）
- 第5回 魯迅『故郷』精読（4）
- 第6回 魯迅『故郷』精読（5）
- 第7回 魯迅作品の延伸閱讀
- 第8回 魯迅『故郷』精読（5）
- 第9回 魯迅『故郷』精読（6）
- 第10回 魯迅『故郷』精読（7）
- 第11回 魯迅『故郷』精読（8）
- 第12回 魯迅作品の延伸閱讀
- 第13回 まとめ、現代中国における「性」を考える（講義）
- 第14回 仮・研究テーマの発表（1）
- 第15回 仮・研究テーマの発表（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論 50%、中間・学期末のレポート 50%

※討論は担当回以外での発言も含みます。

※発表した仮・研究テーマと関係がある書籍を各自一冊決定し、夏休み明けにその内容を紹介してもらいます。

※学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめたものを提出してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 担当者以外も必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。
- ・ 授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当者を決めて輪読します。担当者は発表用のレジユメを作成してください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今日世界で大きな影響力を持つようになった中国の「近代」の歩みを、理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する日中両国は、近現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間、教育など多岐にわたり、文学についてみれば、小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代中国を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 芸術 / 生活 / 思想 / 文化 / 日本

研究演習 A 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

本演習では中国の古典文学を研究します。一口に古典文学と言っても時代もジャンルも様々ですが、近世白話小説の『三国志演義』を取り上げます（以下、『三国志演義』は小説、『三国志』は歴史書を指す）。

『三国志演義』は明代に羅貫中という人物が、それまで語られてきた三国時代の物語を集大成して成立したもので、中国でも日本でもたいへん人気のある作品です。物語の舞台となる三国時代は歴史的にも文学的にも思想的にも非常に魅力的な時代です。

白話小説の白話とは口語のことです。近世白話小説の中国語は、文言文よりは現代中国語に近いのですが違うところも多いので、初めは読みにくく思うかもしれません。

使用するテキストを確定して作品を正確に丁寧に読んでいく—これが研究の第一歩です。したがってこの演習では作品を読むことに重きを置きます。読むといっても日本語に訳したりおおまかな意味をつかんだりすれば良いものではありません。使われている言葉の意味や用法、言葉や表現の背景、表現の特徴、文脈、物語の流れなども理解しなければなりません。担当を決めて順番に読んでいきますが、自分の担当箇所だけでは理解できず、他の人の担当箇所と合わせてようやく理解できるということも少なくありません。ほかにこの演習では、別のテキストとの比較、もととなる『三国志』等の記述との比較をすることもありますし、特に文言文に興味のある人がいれば、『三国志』をはじめ三国時代に関する詩や文章を読んでもらいます。

なお、卒業論文を書く人は、『三国志演義』『三国志』に限らず広く中国古典文学からテーマを選んで構いません。本演習を通してテキストとの向き合い方を学んで下さい。

目標として以下のことを掲げておきます。

(1) 作品に関して

①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③単語の意味や用法、文脈や物語の背景を考えながら、また別のテキストなどを参照しながら丁寧に正確に文章を読めるようになる。④三国時代（や明代）の社会や文化等について理解する。⑤物語の形成過程を理解する。

(2) 発表に関して

①聞いている人が理解しやすい発表をする。②質問やコメントに対し真摯にこたえる。③発表に対して質問やコメントをする。

(3) 課題作成に関して

①気になる点や問題点を見つける。②①に関連する資料を収集する。③決められた文字数で的確にまとめる。

など

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

研究演習 A 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 『三国志』 『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
 - (2) 中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
 - 『中国文学を学ぶ人のために』 (興膳宏編、世界思想社、1991年)
 - 『教養のための中国古典文学史』 (松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
 - ・ 『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』 (大木康、日本放送出版協会 [NHKライブラリー]、2001年)
 - 『漢詩のレッスン』 (川合康三、岩波書店 [岩波ジュニア新書]、2014年)
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 三国時代について-歴史から、文学から-【講義】
 - 第2回 『三国志』から『三国志演義』へ【講義】
 - 第3回 作品の精読(1)【演習】
 - 第4回 作品の精読(2)【演習】
 - 第5回 作品の精読(3)【演習】
 - 第6回 作品の精読(4)【演習】
 - 第7回 作品の精読(5)【演習】
 - 第8回 作品の精読(6)【演習】
 - 第9回 作品の精読(7)【演習】
 - 第10回 作品の精読(8)【演習】
 - 第11回 作品の精読(9)【演習】
 - 第12回 作品の精読(10)【演習】
 - 第13回 作品の精読(11)【演習】
 - 第14回 作品の精読(12)【演習】
 - 第15回 作品の精読(13)【演習】
- ※ 『三国志演義』 (全2冊) (人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年) を底本とし、担当を決めて作品を読んでいきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(40%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】
- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
 - ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
 - ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
- 【事後】
- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
 - ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
 - ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

★この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントが必要です。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、白話小説、正史、建安文学、文言文

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

中国語の普通話と方言音との関係を中心に、中国諸方言の多様性について理解を深めると同時に、中国語音声学・音韻学についての基礎的な知識を獲得すること、また問題意識を持ち問題発見能力を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

趙元任著「私の語言自伝」（授業時に資料を配布する）中里見敬 編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本萬太郎 「訳者あとがき」（ユアン・レン・チャオ『言語学入門—言語と記号システム』岩波書店 1980年）
小川環樹「趙元任の追憶」（小川環樹著作集 第4巻 筑摩書房 1997年）
佐藤昭 『概説 中国語音声学』 2014年
大島正二 『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「私の語言自伝」輪読
- 3回 「私の語言自伝」輪読
- 4回 「私の語言自伝」輪読
- 5回 「私の語言自伝」輪読
- 6回 「私の語言自伝」輪読
- 7回 「私の語言自伝」輪読
- 8回 「私の語言自伝」輪読
- 9回 「私の語言自伝」輪読
- 10回 レポートの書き方・文献収集の仕方
- 11回 「私の語言自伝」輪読
- 12回 「私の語言自伝」輪読
- 13回 「私の語言自伝」輪読
- 14回 「私の語言自伝」輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、小テストなど）…50%、レポート…50%

研究演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は毎回発表（発音練習、語彙調べ、日本語訳）ができるように事前に準備（予習）しておくこと。
また、演習の問題については、中国語学の概説書や研究書に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べるなどして、興味関心を広げること。

履修上の注意 /Remarks

欠席をする場合は必ず事前にメールで連絡をしてください。
締め切りを過ぎての課題提出は受け付けません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語の発音をもう一度再確認する機会にしてください。中国語の授業での予習はきちんと行ってください。その際に、疑問に思ったことなどは授業で積極的に提出してましょ。討論を通して問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード /Keywords

言語 漢語 方言 音韻 音声

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。
ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
 - ② 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ③ 丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ④ 中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション(7)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション(8)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(1)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(2)
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(3)
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(4)
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(5)
- 15回 まとめ

* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

研究演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲを履修していることが望ましい。
輪読のための講読資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究

本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより理解を深めることを目的とする。

本演習では、主として「語用論」という言語学の角度から「ことば」を分析していく。「ことば」は絶えず変化しており、話す相手によって、場所によって、時によって、使用する「ことば」も変わる。

真の言語コミュニケーション能力をつけるためには、文法知識（どのように文を組み立てるか）はもちろんのこと、語用論的知識（ことばをどのように用いるか）も欠かせない。

本演習では主に「語用論」レベルで、日本語と中国語の表現等について比較・対照を行うが、英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書 /Textbooks

資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎授業のはじめに中国語で話す時間を設ける。現代中国語で書かれた文学作品（小説等）を用いて、文法や表現などの問題を受講者それぞれが見つめ解決していく。さらに、日本語等との比較・対照を行い、日本語と中国語の共通点、相違点を見つける訓練を行なう。

- 1 回 対照研究とは何か（概説）
- 2 回 語用論とは何か（概説）
- 3 回 作品講読と問題点の発見・解決 1
- 4 回 作品講読と問題点の発見・解決 2
- 5 回 作品講読と問題点の発見・解決 3
- 6 回 作品講読と問題点の発見・解決 4
- 7 回 作品講読と問題点の発見・解決 5
- 8 回 作品講読と問題点の発見・解決 6
- 9 回 作品講読と問題点の発見・解決 7
- 10 回 作品講読と問題点の発見・解決 8
- 11 回 学術論文の読み方（概説）
- 12 回 学術論文講読と解釈 1
- 13 回 学術論文講読と解釈 2
- 14 回 学術論文講読と解釈 3
- 15 回 まとめ

研究演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（毎回の質問事項提出など）... 50%、発表（プレゼンテーションと発表資料）... 30%、受講態度（積極的な発言）等... 20%
* 課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文学作品、学術論文の講読の際は、毎回、事前に読み、課題（質問事項等）の事前提出が必要である。きちんと授業前に講読を終え、期限内（通常授業の2日前）に課題を提出すること。また、毎回、授業の内容を復習し、次の課題に生かすこと。

履修上の注意 /Remarks

本演習では言語学の知識が必要となる。授業でも取り上げるが、受講前に基本的な言語学の知識を身につけておくことが望ましい。参考文献等を紹介するので、受講前に読んでおきたい場合は、担当者まで問い合わせること。
なお、本演習（ゼミ）は、4年次に卒業作品（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。報告と討論...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

研究演習 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

研究演習 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。

中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハングルの論文を読ませることもある。

漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社,2005年(簡体字表記)
- 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所,1978年(繁体字表記)
- 『清実録』(筆写本)

講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討

研究演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

漢文資料読解能力60%
歴史的な分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べることを。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来れないと思われるので、他の演習の履修を奨める。授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

研究演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

研究演習 B 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

< 中国近現代文学研究 >

本演習では、中国近現代文学を代表する魯迅や周作人の作品、評論の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。

* 研究演習B(後期) : 仮テーマに基づいて文献を選択し、全体で輪読と討論を行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 丸山昇、伊藤虎丸、新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
- 藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- 銭理群、温儒敏、吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)

※その他については授業内で随時紹介します。

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、図書館ツアー
- 第2回 作品の選定、発表順の決定
- 第3回 選択テーマによる作品の精読
- 第4回 選択テーマによる作品の精読
- 第5回 選択テーマによる作品の精読
- 第6回 選択テーマによる作品の精読
- 第7回 選択テーマによる作品の精読
- 第8回 選択テーマによる作品の精読
- 第9回 選択テーマによる作品の精読
- 第10回 選択テーマによる作品の精読
- 第11回 選択テーマによる作品の精読
- 第12回 選択テーマによる作品の精読
- 第13回 選択テーマによる作品の精読
- 第14回 まとめ
- 第15回 本テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論 (50%)、学期末のレポート (50%)

※討論は担当回以外での発言も含まれます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今日世界で大きな影響力を持つようになった中国の「近代」の歩みを、理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する日中両国は、近現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間、教育など多岐にわたり、文学についてみれば、小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代中国を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国近現代文学 / 芸術 / 生活 / 思想 / 文化 / 日本

研究演習 B 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

本演習では中国の古典文学を研究します。一口に古典文学と言っても時代もジャンルも様々ですが、近世白話小説の『三国志演義』を取り上げます（以下、『三国志演義』は小説、『三国志』は歴史書を指す）。

『三国志演義』は明代に羅貫中という人物が、それまで語られてきた三国時代の物語を集大成して成立したもので、中国でも日本でもたいへん人気のある作品です。物語の舞台となる三国時代は歴史的にも文学的にも思想的にも非常に魅力的な時代です。

白話小説の白話とは口語のことです。近世白話小説の中国語は、文言文よりは現代中国語に近いのですが違うところも多いので、初めは読みにくく思うかもしれません。

使用するテキストを確定して作品を正確に丁寧に読んでいく—これが研究の第一歩です。したがってこの演習では作品を読むことに重きを置きます。読むといっても日本語に訳したりおおまかな意味をつかんだりすれば良いものではありません。使われている言葉の意味や用法、言葉や表現の背景、表現の特徴、文脈、物語の流れなども理解しなければなりません。担当を決めて順番に読んでいきますが、自分の担当箇所だけでは理解できず、他の人の担当箇所と合わせてようやく理解できるということも少なくありません。ほかにこの演習では、別のテキストとの比較、もととなる『三国志』等の記述との比較をすることもありますし、特に文言文に興味のある人がいれば、『三国志』をはじめ三国時代に関する詩や文章を読んでもらいます。

なお、卒業論文を書く人は、『三国志演義』『三国志』に限らず広く中国古典文学からテーマを選んで構いません。本演習を通してテキストとの向き合い方を学んで下さい。

目標として以下のことを掲げておきます。

(1) 作品に関して

① 近世白話小説について理解する。② 『三国志演義』『三国志』について理解する。③ 単語の意味や用法、文脈や物語の背景を考えながら、また別のテキストなどを参照しながら丁寧に正確に文章を読めるようになる。④ 三国時代（や明代）の社会や文化等について理解する。⑤ 物語の形成過程を理解する。

(2) 発表に関して

① 聞いている人が理解しやすい発表をする。② 質問やコメントに対し真摯にこたえる。③ 発表に対して質問やコメントをする。

(3) 課題作成に関して

① 気になる点や問題点を見つける。② ①に関連する資料を収集する。③ 決められた文字数で的確にまとめる。

など

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

研究演習 B 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
(2)中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
- 『中国文学を学ぶ人のために』(興膳宏編、世界思想社、1991年)
 - 『教養のための中国古典文学史』(松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
 - ・『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』(大木康、日本放送出版協会 [NHKライブラリー]、2001年)
 - 『漢詩のレッスン』(川合康三、岩波書店 [岩波ジュニア新書]、2014年)
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 作品の精読(1)【演習】
- 第2回 作品の精読(2)【演習】
- 第3回 作品の精読(3)【演習】
- 第4回 作品の精読(4)【演習】
- 第5回 作品の精読(5)【演習】
- 第6回 作品の精読(6)【演習】
- 第7回 作品の精読(7)【演習】
- 第8回 作品の精読(8)【演習】
- 第9回 作品の精読(9)【演習】
- 第10回 作品の精読(10)【演習】
- 第11回 作品の精読(11)【演習】
- 第12回 作品の精読(12)【演習】
- 第13回 作品の精読(13)【演習】
- 第14回 作品の精読(14)【演習】
- 第15回 作品の精読(15)【演習】

※『三国演義』(全2冊)(人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年)を底本とし、担当を決めて作品を読んでいきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(40%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

★この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントが必要です。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、白話小説、正史、建安文学、文言文

研究演習 B 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

毎回中国語学に関する短いエッセイを読み、中国語の音声・文法・語彙におけるさまざまな言語現象について討論を行う。ディスカッションや発表を通して、問題意識を持って問題発見をする力を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

内田慶市・相原茂編 『ことばのしくみ—中国語学読本II—』朝日出版社 2016年 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 “谢谢”
- 第3回 点头是表示赞同吗？
- 第4回 不分裂的故事
- 第5回 生前・死前（Ⅰ）
- 第6回 生前・死前（Ⅱ）
- 第7回 语言和表情达意（Ⅰ）
- 第8回 语言和表情达意（Ⅱ）
- 第9回 図書館ツアー
- 第10回 “考研究生”到底谁去考 - - - 预感的培养
- 第11回 性格演员和多功能演员 - - - 词类与句法成分的对应关系
- 第12回 疑和问（Ⅰ）
- 第13回 疑和问（Ⅱ）
- 第14回 方言与普通话
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、小テストなど）…50%、レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は全員きちんと発表（発音練習、語彙調べ、日本語訳）ができるように事前に準備（予習）をしておくこと。
また、演習の問題については、中国語学の概説書や研究書（授業時に紹介）に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べ、興味関心を広げること。

研究演習 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

欠席の場合は事前にメールで連絡すること。
締め切りを過ぎての課題提出は受けつけない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語ということばの法則性をこの授業を通して自分なりに発見しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 法則性 問題発見 音声 文法 語彙

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。
卒業研究に向けた、社会科学分野における初歩的な分析手法の修得、研究の進め方等をおこない、中国経済分析を中心にさまざまな社会の諸相を分析する視点を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 丸川知雄 『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』 ちくま新書 2013年
 - ② 加藤弘之・上原一慶編著 『中国経済論』 ミネルヴァ書房 2011年
 - ③ 丸川知雄 『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』 アジア経済研究所 1999年
 - ④ 中兼和津次編著 『』 歴史的視野からみた現代中国経済』 ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(1)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(2)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(3)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(4)
- 12回 テーマ選定、分析、ディスカッション(1)
- 13回 テーマ選定、分析、ディスカッション(2)
- 14回 テーマ選定、分析、ディスカッション(3)
- 15回 まとめ

* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

研究演習 B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲを履修していることが望ましい。
輪読のための講読資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 B 【昼】

担当者名 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習 B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究

本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより深めることを目的とする。主として「語用論」という言語学の角度から「ことば」を分析していく。

特に、当該分野における日本語及び簡単な中国語の学術論文を読み、中国語の語法や表現等についての理解を深め、日中両言語の比較・対照の方法を身につける。英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書 /Textbooks

資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎授業の初めの20分は、これまでに身につけた中国語能力を維持するための訓練（ディベート等）を行う。

中国語作品（映像作品の台本・字幕、または小説）講読を通して、語用論的な文法や表現などの問題を受講者それぞれが見つけ解決していく。さらに、日本語等との比較・対照を行い、日本語と中国語の共通点、相違点を見つける訓練を行なう。疑問点等に関連する文献を読むこともある。

- 1回 オリエンテーション、役割分担
- 2回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 1
- 3回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 2
- 4回 学術論文講読と解釈 1
- 5回 学術論文講読と解釈 2
- 6回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 3
- 7回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 4
- 8回 学術論文講読と解釈 3
- 9回 学術論文講読と解釈 4
- 10回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 5
- 11回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 6
- 12回 学術論文講読と解釈 5
- 13回 学術論文講読と解釈 6
- 14回 中国語作品講読と問題点の発見・解決 7
- 15回 学術論文講読と解釈 7

研究演習 B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（プレゼンテーションと発表資料）... 30%、課題（毎回の質問事項提出）... 50%、受講態度（積極的な発言）等... 20%
* 課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文学作品、学術論文の講読の際は、毎回、事前に読み、課題（質問事項等）の事前提出が必要である。きちんと授業前に講読を終え、期限内（通常授業の2日前）に課題を提出すること。また、毎回、授業の内容を復習し、次の課題に生かすこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習（ゼミ）は、4年次に卒業作品（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>

2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前半期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

北京史に関する中文文献(コピーして配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行むけのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 北京史に関する中文文献の輪読【辛亥革命と都市改造】
- 3回 北京史に関する中文文献の輪読【和平門の開通】
- 4回 北京史に関する中文文献の輪読【天安門広場の一般開放】
- 5回 北京史に関する中文文献の輪読【皇城西部の破壊】
- 6回 北京史に関する中文文献の輪読【皇城南部の破壊】
- 7回 北京史に関する中文文献の輪読【牌樓の存廃問題】
- 8回 北京史に関する中文文献の輪読【城壁の消失】
- 9回 北京史に関する中文文献の輪読【梁思成と行政区の配置問題】
- 10回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 11回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 12回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 13回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 14回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 15回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論(70%) 学期末のレポート(30%)による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

研究演習 B 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意 /Remarks

中文文献の輪読は、文法と単語の意味を正確に読み取りながらの直訳を重視します。教師の解説はなるべく日本語訳を除いて、解説と質問を中国語で行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北京に興味のある方の受講歓迎します。悠久の歴史的古都と変動する現代都市を通観的に観察する視点を養いたいと思います。現地の名所旧跡を踏査するさいに非常に有益な知識が得られます。

キーワード /Keywords

北京、元・明・清、名所旧跡、歴史景観保存

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。

中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハングルの論文を読ませることもある。

漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社、2005年(簡体字表記)
- 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所、1978年(繁体字表記)
- 『清実録』(筆写本)

講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討

研究演習 B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

漢文資料読解能力60%
歴史的な分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解するには、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べることを。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来れないと思われるので、他の演習の履修を奨める。授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、1学期の引き続き、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・思想・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

研究演習 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導 >

現代中国をはじめとする文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業レポートを提出することを最終目標とします。

・ 本講義は研究テーマに関連するテキストや先行研究論文の輪読、及び自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。

・ 現代中国をはじめとする各国・地域の主として文学・文化の分野に関する個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

・ 研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 卒業研究テーマの選定等研究報告
- 3回 研究報告、ディスカッション
- 4回 研究報告、ディスカッション
- 5回 研究報告、ディスカッション
- 6回 研究報告、ディスカッション
- 7回 研究報告、ディスカッション
- 8回 研究報告、ディスカッション
- 9回 研究報告、ディスカッション
- 10回 研究報告、ディスカッション
- 11回 研究報告、ディスカッション
- 12回 研究報告、ディスカッション
- 13回 研究報告、ディスカッション
- 14回 研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。

報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。
- ・ 卒業レポートは4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

〈中国古典文学研究〉

本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。

基本的に3年次「研究演習 A、B」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、受講者の興味・関心により別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。（研究論文は中国語文献に限らず日本語文献の場合もあり得る）

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者と相談の上決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス。論文の探し方について
 - 第2回 作品・論文の精読(1)
 - 第3回 作品・論文の精読(2)
 - 第4回 作品・論文の精読(3)
 - 第5回 作品・論文の精読(4)
 - 第6回 作品・論文の精読(5)
 - 第7回 作品・論文の精読(6)
 - 第8回 作品・論文の精読(7)
 - 第9回 作品・論文の精読(8)
 - 第10回 作品・論文の精読(9)
 - 第11回 作品・論文の精読(10)
 - 第12回 作品・論文の精読(11)
 - 第13回 作品・論文の精読(12)
 - 第14回 作品・論文の精読(13)
 - 第15回 作品・論文の精読(14)、または研究成果報告
- ※発表用に資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と質疑応答(50%) + レポートまたは研究成果(50%)

卒業研究演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

★この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。

キーワード /Keywords

中国古典文学

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

この授業では、中国語学を大きなテーマとして、①卒業論文またはゼミ論文を執筆するうえで必要なスキルを修得すること、②論文のタイトル、論文の構想を発表できるところまで到達することを目指します。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 図書館ツアー
- 第3回 発表・ディスカッション
- 第4回 発表、ディスカッション
- 第5回 発表、ディスカッション
- 第6回 論文の構想発表(1)
- 第7回 発表、ディスカッション
- 第8回 発表、ディスカッション
- 第9回 発表、ディスカッション
- 第10回 発表、ディスカッション
- 第11回 発表、ディスカッション
- 第12回 発表、ディスカッション
- 第13回 発表、ディスカッション
- 第14回 論文の構想発表(2)
- 第15回 論文の構想発表(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週(の授業時)までに、発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
発表日にはレジュメを人数分準備しておくこと。
担当者は、授業での発表と受講生・教員との討論を通して見つかった新たな課題を整理し、文献収集、論文の要約などの作業を繰り返し行う。
担当者以外の受講生は、事前に配布された文献をきちんと読み、自分の意見・質問を必ず一つ用意して出席すること。

卒業研究演習 A 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文テーマは早く決定し、必要な参考文献を収集し読み進めていくことが大事です。

キーワード /Keywords

中国語学 音声 語彙 文法 教育

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び現代中国経済分野での卒業研究報告を並行する。
・ 現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジユメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・ 現代中国経済分野で個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
 - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ③丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

卒業研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 卒業研究テーマの選定等
- 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、輪読のために配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。

研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。

事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。

新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲや時事中国語講読Ⅲを履修しておくことが望ましい。

事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究

本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。中国語で書かれた専門分野の学術論文も読み進めていき、卒業作品（論文等）を進めるための基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

なし。

履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）

その他、授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

中国語の小説など文学作品により多くあたり、日本語の表現やそれに付随するジェスチャー、日本の文化・習俗、発想との比較対照を行う。その中で、自分の興味・関心のあるものを探し、それぞれの卒業作品の研究テーマを決定する。さらに、中国語で書かれた学術論文等を読み進め、同時に、卒業作品（論文等）執筆のための基礎作りを行う。

- 1回 論文の書き方1（フォーマット、構成）
- 2回 論文の書き方2（先行文献の収集方法）
- 3回 学術論文（中国語）講読1
- 4回 学術論文（中国語）講読2
- 5回 学術論文（中国語）講読3
- 6回 卒業作品テーマ構想案発表1
- 7回 卒業作品テーマ構想案発表2
- 8回 学術論文（中国語）講読4
- 9回 学術論文（中国語）講読5
- 10回 学術論文（中国語）講読6
- 11回 論文の書き方3
- 12回 論文の書き方4
- 13回 卒業作品構想（目次）発表
- 14回 先行文献講読1
- 15回 先行文献講読2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表（プレゼンテーション）等...50%、課題提出...50%

卒業研究演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題をグループウェアにあげるので、必ず期限内に参照し、課題を準備、提出すること。
修正したファイルをグループウェアにあげるので、必ず期限内に参照し、指示に従い、課題を再提出すること。

履修上の注意 /Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に研究成果（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付ける。
「卒業論文」を執筆する場合は、本演習とは別に必ず「卒業論文」の履修登録をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化、中国語

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。報告と討論...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

卒業研究演習 A 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

履修上の注意 /Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード /Keywords

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 葉 言材 / ye yancai / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

卒業研究演習 A 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意 /Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導 >

現代中国をはじめとする文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業レポートを提出することを最終目標とします。

・ 本講義は研究テーマに関連するテキストや先行研究論文の輪読、及び自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。

・ 現代中国をはじめとする各国・地域の主として文学・文化の分野に関する個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

・ 研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 卒業研究テーマの選定等研究報告
- 3回 研究報告、ディスカッション
- 4回 研究報告、ディスカッション
- 5回 研究報告、ディスカッション
- 6回 研究報告、ディスカッション
- 7回 研究報告、ディスカッション
- 8回 研究報告、ディスカッション
- 9回 研究報告、ディスカッション
- 10回 研究報告、ディスカッション
- 11回 研究報告、ディスカッション
- 12回 研究報告、ディスカッション
- 13回 研究報告、ディスカッション
- 14回 研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。

報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。
- ・ 卒業レポートは4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

〈中国古典文学研究〉

本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。

基本的に3年次「研究演習 A、B」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、受講者の興味・関心により別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。（研究論文は中国語文献に限らず日本語文献の場合もあり得る）

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者と相談の上決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 作品・論文の精読(1)
 - 第2回 作品・論文の精読(2)
 - 第3回 作品・論文の精読(3)
 - 第4回 作品・論文の精読(4)
 - 第5回 作品・論文の精読(5)
 - 第6回 作品・論文の精読(6)
 - 第7回 作品・論文の精読(7)、または研究成果報告(1)
 - 第8回 作品・論文の精読(8)
 - 第9回 作品・論文の精読(9)
 - 第10回 作品・論文の精読(10)
 - 第11回 作品・論文の精読(11)
 - 第12回 作品・論文の精読(12)
 - 第13回 作品・論文の精読(13)
 - 第14回 作品・論文の精読(14)
 - 第15回 作品・論文の精読(15)、または研究成果報告(2)
- ※発表用に資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と質疑応答(50%) + レポートまたは研究成果(50%)

卒業研究演習B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

★この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。

キーワード /Keywords

中国古典文学

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本授業では、受講生が卒業論文・ゼミ論文を完成させるための指導を行うことを目的とする。
毎回、各自の卒業論文もしくはゼミ論文のテーマに沿った内容を発表し、その後皆で討論する。この訓練を繰り返すことで、ゼミ生一人一人のテーマに関する知識や考えを深化させ、卒業論文・ゼミ論文の完成につなげていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第3回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第4回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第5回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第6回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第7回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第8回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第9回 論文指導
- 第10回 論文指導
- 第11回 論文指導
- 第12回 論文指導
- 第13回 論文指導
- 第14回 論文指導
- 第15回 卒業論文・ゼミ論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週(の授業時)に発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
また、発表日にはレジュメを人数分準備しておくこと。
授業後、担当者は、発表の際に得た意見や質問などを整理して再度論文執筆に取り組む。
その他のゼミ生は、配布された文献をきちんと読んで授業に出席すること。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合はメール連絡を必ず行うこと。
締切日を過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4年間の集大成となる論文を悔いなく書き上げることを目標にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

中国語 音声 語彙 文法

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

現代中国をはじめとする諸経済の分析を主体的に行い、一定の分析結果、結論を導くことを目的とする。具体的には、個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行する。
・現代中国をはじめとする各国・地域の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・現代中国をはじめとする各国・地域の主として経済分野に関する個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
 - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ③丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告、ディスカッション
- 3回 研究報告、ディスカッション
- 4回 研究報告、ディスカッション
- 5回 研究報告、ディスカッション
- 6回 研究報告、ディスカッション
- 7回 研究報告、ディスカッション
- 8回 研究報告、ディスカッション
- 9回 研究報告、ディスカッション
- 10回 研究報告、ディスカッション
- 11回 研究報告、ディスカッション
- 12回 研究報告、ディスカッション
- 13回 研究報告、ディスカッション
- 14回 研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

卒業研究演習B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、輪読のために配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。

研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。

事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。

新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論IIIや時事中国語講読IIIを履修しておくことが望ましい。

事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究

本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。同時に、自分の選択したテーマに関わることをまとめる力と分析する力、そして発表する力（プレゼン能力）を身につける。

教科書 /Textbooks

履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）

その他、授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自が決めた卒業作品のテーマについて、調査、分析を進め、調べた結果を担当者に発表（プレゼン）してもらう。授業内に関連の先行文献（学術論文等）を読むこともある。

- 1回 卒業作品第1回発表
- 2回 学術論文等講読1
- 3回 学術論文等講読2
- 4回 学術論文等講読3
- 5回 卒業作品第2回発表
- 6回 学術論文等講読4
- 7回 学術論文等講読5
- 8回 学術論文等講読6
- 9回 卒業作品第3回発表
- 10回 学術論文等講読7
- 11回 学術論文等講読8
- 12回 卒業作品第4回発表
- 13回 学術論文等講読9
- 14回 学術論文等講読10
- 15回 卒業作品最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

最終発表（プレゼンテーション、発表資料）... 40% 中間発表（プレゼンテーション、発表資料）4回... 60%
決められた5回全ての発表を行うことが成績付与の条件である。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題をグループウェアにあげるなので、必ず期限内に参照し、課題を準備、提出すること。
修正したファイルをグループウェアにあげるなので、必ず期限内に参照し、指示に従い、課題を再提出すること。

履修上の注意 /Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に研究成果（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付ける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 堀地 明 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。報告と討論...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

卒業研究演習 B 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関する諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

履修上の注意 /Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード /Keywords

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、1学期の引き続き、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・思想・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

卒業研究演習 B 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国研究概論

ARE111M

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学的な観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から間もなく70年を迎えようとする中華人民共和国は経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、授業の前半では、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの課題を抱える中国の現状について解説する。後半では、国際社会との関係を軸に中国を論じる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年(○)。
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)。
毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年(○)。
遊川和郎他著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所、2016年(○)。
吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 中国研究の基礎知識
- 3回 共産党一党支配体制I【経済体制】
- 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
- 5回 中央と地方
- 6回 メディアと情報統制
- 7回 経済格差I【所得】
- 8回 経済格差II【社会、民族】
- 9回 民族
- 10回 台湾I【日台関係】
- 11回 台湾II【中台関係】
- 12回 中国と国際関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ... 各45% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのが確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがあります。

キーワード /Keywords

中国近現代史I【昼】

担当者名 /Instructor 堤 和幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史 I

HIS120M

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」

アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅱ

HIS121M

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」

中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

中国文学概論I【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国文学に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国文学に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国文学に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文学概論I

LIT150M

授業の概要 /Course Description

中国古典文学について、特に代表的な時代・ジャンルにのみ絞り、簡単な概説の後、作品（もしくはその一部或いは概要）を講読し、詳細な解説を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・受講のための予備知識
- 2 中国古典文学の特質(1) - 「文学」の定義
- 3 中国古典文学の特質(2) - 小説の評価
- 4 中国の伝説に見る歴史・文化
- 5 『詩経』
- 6 『韓非子』の中の寓話
- 7 六朝志怪小説(1) - 概要・時代背景
- 8 六朝志怪小説(2) - 作品
- 9 唐詩 - 杜甫
- 10 唐詩 - 李賀(1) - 李賀の生涯
- 11 唐詩 - 李賀(2) - 作品
- 12 唐代伝奇(1) - 概要・時代背景
- 13 唐代伝奇(2) - 作品
- 14 明代の白話小説『金瓶梅』(1) - 概要・時代背景
- 15 明代の白話小説『金瓶梅』(2) - 作品

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(70%)、平常点(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国文学に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国文学に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国文学に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文学概論II

LIT151M

授業の概要 /Course Description

中華民国期（1912～49）を中心とした中国近現代文学の作品を数編取り上げ、作品講読や、内容、時代背景に関する説明を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・受講にあたっての予備知識（1）
- 2 受講にあたっての予備知識（2）
- 3 魯迅「狂人日記」（1）
- 4 魯迅「狂人日記」（2）
- 5 郭沫若「残春」（1）
- 6 郭沫若「残春」（2）
- 7 許地山「春桃」（1）
- 8 許地山「春桃」（2）
- 9 穆時英「夜」（1）
- 10 穆時英「夜」（2）
- 11 施蛰存「梅雨之夕」（1）
- 12 施蛰存「梅雨之夕」（2）
- 13 中華民国期の「旧文学」（1）
- 14 中華民国期の「旧文学」（2）
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（70％）、平常点（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国文化に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国文化に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国文化に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文化論

ARE110M

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国語学（言語学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語学概論Ⅰ

LIN210M

授業の概要 /Course Description

世界には何千種類もの言語が存在するが、その中で中国語とはどのような言語であるかについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、パソコンなどの情報機器による中国語の処理、音声、文字、語彙等について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学習ハンドブック(改訂版)』相原茂編著、大修館書店
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語とはどんな言語か：概説
- 2回 中国語とはどんな言語か：中国語の特徴、歴史
- 3回 中国語とはどんな言語か：中国語の共通語と方言
- 4回 中国語とはどんな言語か：中国語の音声1（中国語の音節構造）
- 5回 中国語とはどんな言語か：中国語の音声2（多音語、異読語）
- 6回 中国語とはどんな言語か：情報機器による中国語の処理
- 7回 世界の言語と中国語：言語学の基礎1【統語構造分析】
- 8回 世界の言語と中国語：言語学の基礎2【語用論】
- 9回 世界の言語と中国語：言語と社会・文化
- 10回 中国語の文字1：漢字の起源と変化、構造
- 11回 中国語の文字2：文字改革（簡体字化と規範化）
- 12回 中国語の語彙1：語彙の形成、語の構造、形態素、語
- 13回 中国語の語彙2：語の意味、同音語、異形語、同形語
- 14回 中国語の語彙3：日中同形語、外来語比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（課題・小テスト・受講態度等）...30%
出席が全受講回数数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国語学（言語学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語学概論II

LIN211M

授業の概要 /Course Description

日本語や英語との比較・対照という視点も取り入れながら、中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現（発想の違い）について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴著、白帝社）
『中国語わかる文法』（興水優・島田亜実著、大修館書店）
『イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕著、アルク）
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語の文法1：文法基礎知識
- 2回 中国語の文法2：中国語の品詞1【実詞（体詞）】
- 3回 中国語の文法3：中国語の品詞2【実詞（述詞）】
- 4回 中国語の文法4：中国語の品詞3【虚詞】
- 5回 中国語の文法5：フレーズ1【主述・動賓フレーズ】
- 6回 中国語の文法6：フレーズ2【修飾・補語フレーズ】
- 7回 中国語の文法7：文1【機能・述語による分の分類】
- 8回 中国語の文法8：文2【特殊な動詞述語文】
- 9回 文法のまとめ
- 10回 中国語の表現1：あいさつ、親族名称と呼称
- 11回 中国語の表現2：人称代名詞、指示代名詞
- 12回 中国語の表現3：敬語、ボディランゲージ
- 13回 中国語の表現4：日中英語の発想の違い1
- 14回 中国語の表現5：日中英語の発想の違い2
- 15回 表現のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（小テスト、課題・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音声学I【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国語学（音声学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語音声学 I

LIN212M

授業の概要 /Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤昭 編著 『概説 中国語音声学』
教科書購入時期については、4月中に指示を出す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日下恒夫 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
川原繁人 『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』岩波書店、2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

漢字と音声、中国語と日本語、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題など中国語の音声に関わるさまざまな事象についてテーマ別に講義していく。

- 1回 文字と音声
- 2回 日本漢字と中国漢字
- 3回 発音器官と言語音の分類
- 4回 日本語の音節と中国語の音節
- 5回 外国語音の発音習得
- 6回 中国語の音節頭子音
- 7回 中国語の韻母
- 8回 音節主母音
- 9回 中国語の基本音節表
- 10回 声調について
- 11回 軽声について
- 12回 3音節の連続(3字連結)
- 13回 中国語のさまざまな発音変化
- 14回 アル化(見化)韻母
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…60% その他(小テスト、授業中の態度など)…40%
授業中の能動的態度は特に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、予習(教科書に目を通すこと、語彙調べなど)をしておくこと。
次の授業では、前回の授業内容の理解度を測るための小テストを実施する。このため授業後には、きちんと宿題や復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書は毎年少しずつ内容が変更されているので、必ず購入してください。

本講義は、外国語である中国語の発音習得に役立つ内容が多く含まれています。理解できたものを実践の場で生かすように心がけてください。

キーワード /Keywords

中国語 発音 音声

中国語音声学Ⅱ 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国語学（音声学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語音声学Ⅱ

LIN213M

授業の概要 /Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤昭編著『概説 中国語音声学』2017年
川原繁人著『音とことばのふしぎな世界 - メイド声から英語の達人まで』岩波書店、2015年
日下恒夫著『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
大島正二『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

中国語の発音に関する諸現象（見化韻、軽声、変調）や方言音など、中国語の音声に関わるさまざまな事象をテーマ別に講義していく。

- 1回 アル化（見化）韻母
- 2回 重音と軽音
- 3回 イントネーション・プロミネンス・ポーズ
- 4回 語気助詞「啊」・感嘆詞・あいづち用語の発音
- 5回 中国語文の朗読法
- 6回 中国語文の朗読【発表】
- 7回 擬声音・音訳語・アルファベット語
- 8回 漢字の一字多音について
- 9回 中国語の押韻とことばと音楽
- 10回 中国語の押韻とことばと音楽【視聴覚資料を使って】
- 11回 中国の方言音と方言区分（1）【中国語の方言】
- 12回 中国の方言音と方言区分（2）【北京音と各地方方言音との比較】
- 13回 中国語の古代音と現代音
- 14回 中古音から現代音への変化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% その他（小テスト、授業中の態度など）・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予習（テキストに目を通す、語彙調べなど）をしっかりと行うこと。
授業内容を把握し、知識が定着しているかを確認するために小テストを実施する。
受講生は授業後、次回授業の小テストに向けて、授業内容をきちんと復習しておくこと。

中国語音声学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
専門科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語 普通話 発音

現代中国の政治【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国政治とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国政治とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の政治

ARE211M

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。
授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年(○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪み
- 12回 第二次天安門事件
- 13回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 14回 現代の課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ... 各45%、 日常の授業への取り組み ... 10%

現代中国の政治【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国の外交【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国外交とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国外交とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		
※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		現代中国の外交	ARE212M

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾問題を検討する。中国の海洋進出や地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年(○)。
王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年(○)。
服部龍二『日中国交正常化一田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年(○)。
安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年。
ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
- 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
- 4回 対日関係I【国交正常化】
- 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
- 6回 中台関係I【基礎知識】
- 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
- 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
- 9回 米中関係I【冷戦期】
- 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
- 11回 多国間外交：地域主義とグローバリズム
- 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
- 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
- 14回 中港関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ... 各45% 日常の授業への取り組み ... 10%

現代中国の外交【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に（あるいは並行）受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得てください。

キーワード /Keywords

中国の社会【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国の社会

ARE210M

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国の社会について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国の社会について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。そこで、中国における政治・外交・経済・宗教・文化などの分野について、歴史学研究成果をふまえて論じたい。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、中国の社会に対する理解・関心を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 日中交流史
 - 3回 中国の歴史(1) 【「中国」のはじまり】
 - 4回 中国の歴史(2) 【秦漢時代】
 - 5回 中国の歴史(3) 【魏晋南北朝時代】
 - 6回 中国の歴史(4) 【隋唐時代】
 - 7回 中国の歴史(5) 【宋元時代】
 - 8回 中国の歴史(6) 【明清時代】
 - 9回 中国の政治体制と国際関係
 - 10回 中国の宗教(1) 【儒教】
 - 11回 中国の宗教(2) 【道教】
 - 12回 中国の宗教(3) 【仏教】
 - 13回 中国の文化
 - 14回 中国の経済
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の「現在」を理解するには、「歴史」を知ることが大切です。
中国の「今と昔」を理解することは、必ず学生諸君のプラスになります。

キーワード /Keywords

中国 社会 歴史 政治 外交 宗教 文化 経済 日中関係

日中比較文化論【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日中文化の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 日中文化の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 日中文化の比較的理解に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日中比較文化論

ARE263M

授業の概要 /Course Description

日本と中国の交流を歴史的に鳥瞰し、文化面を細分化して、その特徴を捉えてみる。視聴覚教材を随時使用し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』（メディカルコーコン社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史年表にみる日中比較 概説
- 第2回 漢字文化の伝来 ①【漢字という文字】
- 第3回 漢字文化の伝来 ②【音声の比較】
- 第4回 仏教の伝来と日中の差異 ①【大乘仏教と小乗仏教】
- 第5回 仏教の伝来と日中の差異 ②【経文と宗派】
- 第6回 日中食文化の比較 ①【主食穀物】
- 第7回 日中食文化の比較 ②【肉食比較】
- 第8回 日中食文化の比較 ③【茶の伝来と現況】
- 第9回 書と絵画 小史①【王羲之の足跡】
- 第10回 書と絵画 小史②【国画】
- 第11回 芸能史が伝えるもの ①【仮面劇】
- 第12回 芸能史が伝えるもの ②【京劇と歌舞伎】
- 第13回 自然保護と環境問題 ①【水問題】
- 第14回 自然保護と環境問題 ②【宇宙開発】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の講義への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、学習した内容を復習し、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物等において関連事項について概要を捉えておくこと。授業後、講義中に指摘された質問について解答をノートに記しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知りたい・観たい・聴きたい

中国社会経済史I 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史 I

HIS220M

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
- 第2回 桃園の誓い(農村部における定期市)
- 第3回 桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
- 第4回 三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
- 第5回 三顧の礼(古代中国の書物)
- 第6回 三顧の礼(伝統中国の葬礼)
- 第7回 三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
- 第8回 三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
- 第10回 赤壁の戦い(受禅台を通して見た貴族制への移行)
- 第11回 五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
- 第12回 五丈原(蜀の栈道を通して見た交通と経済)
- 第13回 五丈原(兵法家孔明の評価)
- 第14回 晋の三国統一の社会経済的意味
- 第15回 まとめの回(小説を通して見た伝統中国の諸様相)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後の学習は特に必要ないが、他の講義を聞く時の参考とすべきこと。

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジユメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史II

HIS221M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店、2009年。
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易
- 第6回 朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
- 第7回 朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
- 第8回 乱塵(商業独占権と特権商人の保護)
- 第9回 辛亥通共(乱塵の禁止)
- 第10回 中国・朝鮮・日本における火器の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
- 第13回 承政院日記の洗草の意味するもの
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書などにより近世東アジアの歴史を学んでおくこと。事後には定期的に小テストを行うので、復習も行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論 I

ECN253M

授業の概要 /Course Description

中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の流れとそれに伴う中国経済・社会の変容をトピック別に解説し、中国経済が現在に至った経緯について理解を深めます。これによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解し、それらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
 - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ③丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 経済発展の概観(1)【経済発展】【開発】
- 3回 経済発展の概観(2)【経済発展】【市場経済化】
- 4回 中国経済を見る視点と枠組(1)【企業制度】【利潤最大化】【政府】
- 5回 中国経済を見る視点と枠組(2)【SNA】
- 6回 農業・農村(1)【インセンティブ】【請負制】
- 7回 農業・農村(2)【インセンティブ】【工業化】
- 8回 農業・農村(3)【土地請負制】【三農問題】
- 9回 農業・農村(4)【経済発展】【生産性】
- 10回 製造業・企業(1)【国有企業】【規制緩和】
- 11回 製造業・企業(2)【予算制約】【所有権改革】
- 12回 製造業・企業(3)【上場企業】【民営企業】
- 13回 製造業・企業(4)【企業制度】【企業データ】
- 14回 経済発展の課題
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論II

ECN254M

授業の概要 /Course Description

中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論IIでは、主として経済改革が多く分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国でどのような特徴を持つ市場が形成されたのか、その特質について、主として金融政策とその効果を例に挙げながら議論していきます。
その中で中国経済が直面する課題を模索していきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
 - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ③丸川知雄『市場発生ダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
- 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
- 4回 政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
- 5回 政策の実行とその影響(2)【経済改革】
- 6回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
- 7回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
- 8回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
- 9回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
- 10回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
- 11回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
- 12回 為替の動向と金融政策の効果
- 13回 労働市場の動向【余剰労働力】【労働力不足】【新契約法】
- 14回 持続的成長への課題
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習 : 経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してみてください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文学【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国を中心とした地域の文学、言語、歴史といった多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に軸足を置きながら、中国の古典を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	漢文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	日本文化と中国文化をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

漢文学

LIT250M

授業の概要 /Course Description

「漢文」は、中国古代の「文語文」で書かれた、あらゆる文章を指すものである。二十世紀まで、中国では正式の文章語として、ほぼ二千年間にわたって使用されており、日本・朝鮮半島・ベトナムにおいても、知識人の共通言語として広く普及していた。日本人が最初に接触し、かつ使用した文字は漢字なので、最初に目に触れた「文章」も、当然「漢文」である。それゆえ「漢文」を学ぶことは、中国の歴史や文化への理解を深めるだけでなく、日本人にとっては、自国の文化形成の原初のプロセスを「追体験」することにもなる。この授業では「日本人にとっての漢文」という視点から、まず日本にもたらされ、かつての日本人によって広く読まれ、血肉と化していた文章を取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、日本文学に対して、それぞれの時期において、漢文学がどのような影響をあたえたか、などについても理解を深める。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品をも読んでいく。こうした作業によって、日本と中国をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高め、また相互の比較研究によって、自国の文化に対してさらに理解を深めていくことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア-訓読の文化圏-』（岩波書店、岩波新書）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【日本人にとって「漢文」とは】【現代において「漢文」を学ぶことの意味】
- 2回 儒教（1）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の中の孔子像】
- 3回 儒教（2）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の中の孔子像】
- 4回 儒教（3）【孔子の生涯】【論語】【孔子と儒学・儒教】
- 5回 諸子百家【百家争鳴】【道家】【法家】
- 6回 仏教漢文【インド思想と中国人】【中国の仏教徒にとっての釈迦・孔子・老子】
- 7回 中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】【日本刀歌】
- 8回 漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】
- 9回 日本漢文（1）【奈良～室町】【懐風藻】【菅原道真】
- 10回 日本漢文（2）【江戸前期～中期】【荻生徂徠】
- 11回 日本漢文（3）【江戸後期】【菅茶山】【頼山陽】【広瀬淡窓】
- 12回 中国小説と日本小説（1）【三国志】【水滸伝】【雨月物語】【南総里見八犬伝】
- 13回 中国小説と日本小説（2）【三国志】【水滸伝】【雨月物語】【南総里見八犬伝】
- 14回 近代日本と漢文【夏目漱石】【森鷗外】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポートなど）... 40% 期末試験... 60%

漢文学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むこと。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された参考資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントやノートを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文 儒教 孔子 四書五経 諸子百家 日本漢文 訓点 万葉仮名

比較中国思想 【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国思想の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国思想の比較的理解に関わり、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国思想の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国思想の比較的理解に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較中国思想

ARE310M

授業の概要 /Course Description

中国思想史の流れを勉強したうえで、日本における儒学の発展軌跡を勉強する。中、日両国の思想の特徴を解明するに努める。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○
『从汉学到中国学』(中華書局2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 中国思想史概論
- 第二回 先秦・諸子の思想
- 第三回 中国古代国家のイデオロギ
- 第四回 秦漢時代の思想
- 第五回 六朝の思想
- 第六回 唐代の思想
- 第七回 宋代の思想
- 第八回 日本古代の思想と儒教
- 第九回 江戸時代の思想史
- 第十回 日本の朱子学と古学派
- 第十一回 日本の陽明学
- 第十二回 日本における儒学の終焉と近代学校
- 第十三回 中國の儒教の終結
- 第十四回 新文化運動
- 第十五回 新中国の思想傾向、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む態度30%、演習あるいはレポート70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は、授業前に前回提示したキーワードを調べ、授業後にノート確認すること。授業中に出された課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、外国語学部中国学科と文学部比較文化学科の共通授業。
授業は日本語で行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード /Keywords

時事中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読 I

ARE311M

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国经济・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国经济・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れるようにする。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国经济」 アジア経済研究所 ¥1400
 日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ¥630
 高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ¥700
 丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
 事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるよう尽力すること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読II

ARE312M

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れるようにする。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
 日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
 高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700
 丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

時事中国語講読II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと

事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるよう尽力すること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語現代文献講読I【昼】

担当者名 /Instructor 堤 和幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の文献を通じて、現代中国に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	● 現代中国語で書かれた文献をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現代中国に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	● 現代中国に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語現代文献講読 I

ARE313M

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な繁体字（繁体字）に習熟する。

教科書 /Textbooks

洪長泰『地標...北京の空間政治』（OXFORD University Press 2011年、中文繁体字横書き）
「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○倉沢進他『北京 皇都の歴史と空間』（中公新書 2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「序論」輪読-内戦の帰趨と共産黨の北平入城
- 第3回 「序論」輪読-空間政治理論と記念碑的建築群
- 第4回 「序論」輪読-共産黨の政治と首都北京の決定
- 第5回 「序論」輪読-空間政治理論と一黨専制、本書の内容
- 第6回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-1949年建國大典と天安門廣場
- 第7回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-新行政區中心の配置を巡って
- 第8回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-中國人都市設計家の構想
- 第9回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-北京改造を巡る中ソ論争
- 第10回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の創出と設計プラン
- 第11回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門前からの住民強制退去
- 第12回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の主要建物をめぐって
- 第13回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の面積をめぐって
- 第14回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-長安街の廣さをめぐって
- 第15回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の誕生と中國の民族主義

- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
- ②語彙や文法についても適宜解説する。
- ③あらかじめ輪読の担当者2～3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
- ④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価40%、期末試験60%。
必要に応じて小テストを実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁体字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁体字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

中国語現代文献講読II 【昼】

担当者名 堀地 明 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文献を通じて、現代中国に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	●	現代中国語で書かれた文献をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	現代中国に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	現代中国に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語現代文献講読II

ARE314M

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な字体「繁體字」（繁体字）に習熟する。

教科書 /Textbooks

張戎『鴻 三代中國女人的故事』（唐莊文化 2006年、中文繁體字縦書き）

- 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（1909～1933年）」
- 2 「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（1933～1938年）」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中仁等『新図説中国近現代史』（法律文化社、2012年）

中国語現代文献講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
第2回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【作品の時代的背景と舞台】
第3回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【中国の伝統的家族】
第4回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【伝統中国における女性の社会的地位】
第5回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【三寸金蓮とは？纏足】
第6回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【纏足の苦痛】
第7回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【直隸派軍閥と軍閥混戦】
第8回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【父の結婚計画】
第9回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【伝帖女性の修養】
第10回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【軍閥將軍の第四夫人として嫁ぐ】
第11回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【監視される孤独な生活】
第12回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【懐妊と女子出産】
第13回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【將軍の死と第一夫人との会見】
第14回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【第一夫人から娘を奪還し逃亡】
第15回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909~1933年)」 輪読 【実家に戻るも、バラバラな家族】

- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
②語彙や文法についても適宜解説する。
③あらかじめ輪読の担当者2~3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価40%、期末試験60%。
必要に応じて小テストを実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究I【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会と歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会と歴史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会と歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国歴史社会研究 I

HIS320M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
- 第3回 鶏肋の意味
- 第4回 朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
- 第5回 饅頭・儒教と「孝」
- 第6回 ヨンセンと人間関係
- 第7回 冊封体制・明の使節
- 第8回 満漢全席・食器
- 第9回 料理
- 第10回 「忠」と「孝」との相克
- 第11回 衣装と服制
- 第12回 白米・貨幣
- 第13回 上司の条件
- 第14回 東アジアにおける銀の流通
- 第15回 結論(東アジアの文化的共通性)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会と歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会と歴史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会と歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国歴史社会研究II

HIS321M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普遍的な思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
- 第3回 儒教の経典
- 第4回 復讐と報恩・ヨンセンの面子
- 第5回 東洋医学・己卯士禍
- 第6回 華佗
- 第7回 脚気
- 第8回 宮廷の構成
- 第9回 胡椒の流入・韓国人と漢字
- 第10回 裁判制度・密貿易
- 第11回 親孝行
- 第12回 大長今の称号
- 第13回 チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
- 第14回 チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
- 第15回 結論(中国文化の朝鮮への伝播)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

ビジネス中国語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ B C T 初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

ビジネス中国語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ B C T 初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ

CHN363M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備すること。

履修上の注意 /Remarks

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 B C T 受験 (B C T 初級、中・ 上級を含む)

ビジネス中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語II

CHN363M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備すること。

履修上の注意 /Remarks

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 B C T 受験 (B C T 初級、中・ 上級を含む)

東アジア経済論【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域でやかなり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の代表的な国々の経済を概観し、その特徴を深く理解することである。もう一つには、東アジア経済に関連する共通した特徴や課題を理解することである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジア経済の特徴を「工業化」、「サービス化」、「移民」、「体制移行」という4つのキーワードで捉えて、それぞれの特徴について代表的な国の経済を紹介し、そのキーワードに関する理論的背景や歴史的な事情などを解説をしていく。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文真堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済
- 4回 東アジアの工業化戦略
- 5回 シンガポール経済
- 6回 香港経済
- 7回 国際金融・国際物流
- 8回 マレーシア経済
- 9回 インドネシア経済
- 10回 ASEANにおける華人経済
- 11回 中国
- 12回 その他移行経済（ベトナム、ミャンマー、北朝鮮など）
- 13回 国家と市場、開発独裁
- 14回 アジア通貨危機
- 15回 アジアにおける地域統合

東アジア経済論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するおく。事後学習としては、授業で取り上げたキーワードについての知識と、各国の事例を結びつけて復習しておく。

履修上の注意 /Remarks

経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化、サービス化、移民・華人、体制移行、アジア通貨危機、地域統合

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて基礎的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアに関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジア研究概論

ARE113M

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール（1）インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール（2）マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール（3）シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール（4）フィリピン
- 9回 東南アジアと日本（1）第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール（1）ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール（2）カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール（3）タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール（4）ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本（2）第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回） ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

東南アジア研究概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(国関) 英米文化概論I	ARE130M
(比文) イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野・北

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文化(主にアメリカ)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 英米文化(主にアメリカ)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化概論II

ARE226M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをガイダンスで配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
- 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
- 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
- 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
- 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
- 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
- 第7回 再建の時代【南部の再建】【憲法修正】【市民権】
- 第8回 19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ社会【鉄道】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
- 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
- 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
- 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
- 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
- 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
- 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
- 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。授業前にあらかじめ教科書で予習し、授業後は教科書とノートで復習をおこなうこと。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論I

ARE315M

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉えなおし、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。

- 第1回 教科書の紹介、第I部第1章 【地域統合】【理論】【制度】
- 第2回 第I部第2章 【東アジア共同体】【TPP】【アメリカの関与】
- 第3回 第I部第3章 【EU事例】【主権】
- 第4回 第I部第4章 【東アジア共同体憲章案】
- 第5回 第I部第5章 【ASEAN】【ヨーロッパ統合】
- 第6回 第I部第6章 【北東アジア】【朝鮮半島】
- 第7回 第I部第7章 【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連帯】
- 第8回 第I部第8章 【バルカン】【地域史】
- 第9回 第I部第9章 【地域安全保障】【中国】
- 第10回 第I部第10章 【安全保障】【地域秩序】
- 第11回 第I部第11章 【欧州共同体】【地域の不安定化】
- 第12回 第V部第13章 【人の移動】【マイノリティ】
- 第13回 第V部第14章 【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
- 第14回 第V部第15章 【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20点）、レポート2本（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業は報告者以外の受講生も予習してくる。授業後の関連文献の自主学習。

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去と現在に漢詩を持ち、明るい日本と東アジア地域の将来を展望し構想しましょう。

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論II

ARE316M

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、變らの東アジア地域秩序を考えること。そのため、本講義では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的な視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代—なぜ対立するか—』大阪大学出版会、2011、3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、受講生の報告、補足講義という形式で行う。

第1回 概説と教科書の序章 【アジアからの視点】【文明論的視点】
第2回 第一章の一 【国体論】【国体ナショナリズム】
第3回 第一章の二、三 【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
第4回 第二章の一、二 【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
第5回 第二章の三、四 【ナショナリズムの噴出と相克】
第6回 第三章の一、二 【洋務運動】【戊戌変法】【ナショナリズムの萌芽】
第7回 第三章の三 【辛亥革命】【民族主義】【国粋主義】
第8回 第四章の一 【脱亜】【興亜】【帝国日本】
第9回 第四章の二、三 【戦争】【東亜協同論】
第10回 第五章の一、二 【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
第11回 第五章の三、四 【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
第12回 第六章の一、二 【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
第13回 第六章の三 【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
第14回 終章 【ナショナリズムの相克】
第15回 まとめ 【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20%）、2本のレポート（1本40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、教科書の予習をしてくること。それを前提として授業を進める。関連文献を探し、自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業の予習は必須。

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、かつそれぞれのナショナリズムを相対化すること。そして将来の東アジア国際関係の協調体制と東アジア共同体を構想すること。

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 発展途上国の発展について【貧困の悪循環】
- 6回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 7回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 8回 アジアNIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジアNIES】
- 9回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 10回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 11回 組織モデル【組織】・海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

完全に理解しようとする、幅広い知識を必要とする。直接投資理論に関しては、国際経済に関する基本的な本を参考にして欲しい。中国、ASEAN4、アジアNIES、ヨーロッパ、アメリカに関する概説を行なった上で、教科書の説明を行なうので、中国等に興味関心があれば、予め、概説本を読んでおくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

トランプ新大統領の誕生は、アメリカ経済を再び世界経済の台風の目にしてしています。トランプ大統領の減税・公共事業でアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドのイエレン議長は、昨年12月、2回目のFFレートの目標値引き上げを行いました。このことは国内経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

宮田 由紀夫・玉井 敬人『アメリカ経済入門』晃洋書房、2016年1月。
藤井巖喜『トランプ革命で復活するアメリカ - 日本はどう対応すべきか』勉誠出版、2016年12月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

アメリカ経済 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください。
事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交

ARE216M

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN---新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡---'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦---「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合（ASA）の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド（Maphilindo）
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国（1）「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国（2）カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム（ARF）、ASEAN+3、東アジア首脳会議（EAS）
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 道徳教育実践の主体としての教師 - 道徳は教えられるか?
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達之糧」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、期末試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、まず中国の言語・文化・社会に対する基本的事項を確認した上で、主に中国語学習の動機付け、入門・初級における発音、ピンイン表記、音読指導、シャドウイング指導について検討する。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲持続に大きく影響する。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学の習得を左右する。そのため、まず学習者をいかにして楽しく積極的な学習に導くかについて考え、その後に発音指導、音読、シャドウイング指導をどのような順序でどのように行うかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 奥水優『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』（富山房インターナショナル、2005）
- ・ 胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』（東方書店、2009）
- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領 第9節 外国語』（平成20年）
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領 第8節 外国語』（平成21年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の言語・文化・社会について
- 3回 学習指導要領について
- 4回 中国語学習の動機付け(1) - 理論
- 5回 中国語学習の動機付け(2) - 実践
- 6回 学習指導案について
- 7回 発音指導の順序と方法
- 8回 声調、基本母音、複母音に関する問題点とその指導
- 9回 子音に関する問題点とその指導
- 10回 轻声・ア - ル化に関する問題点とその指導
- 11回 ピンインに関する概説と問題点
- 12回 ピンインの指導
- 13回 音読の効用とその指導
- 14回 シャドウイングの効用とその指導
- 15回 まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50%、 期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。
中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育、動機づけ、発音指導、音読指導、シャドウイング指導

中国語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、中国語によるコミュニケーション能力を高めるための初級レベルの文法指導及び教室活動のあり方、評価のしかたについて検討する。真のコミュニケーション能力を高めるためにどのように文法事項を学習者に提示し、どのような教室活動を行うかについて模擬授業も交えながら受講生と共に考える。最後にどのように言語能力の評価のしかたについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 輿水優 『中国語の教え方・ 学び方 - 中国語科教育法概説』 (富山房インターナショナル、2005)
- ・ 胡玉華 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』 (東方書店、 2009)
- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領 第9節 外国語』 (平成20年)
- ・ 文部科学省 『高等学校学習指導要領 第8節 外国語』 (平成21年)

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国語の基本文型
- 3回 初級教育で扱う語彙と文法事項の選定
- 4回 学習目標と年間授業計画表について
- 5回 文法指導法(1) - “有”を中心に
- 6回 文法指導法(2) - 能願動詞を中心に
- 7回 文法指導法(3) - “了”を中心に
- 8回 文法指導法(4) - 比較構文を中心に
- 9回 模擬授業(発音・ 語彙及び文法の指導を中心に)
- 10回 スピーキング能力の指導及び評価
- 11回 リスニング能力の指導及び評価
- 12回 ライティング能力の指導及び評価
- 13回 リーディング能力の指導及び評価
- 14回 模擬授業(コミュニケーション能力の向上を中心に)
- 15回 まとめ: レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50%、期末レポート...50%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。
中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育、文法指導、コミュニケーション指導、教室活動

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい教育の方法と技術 2012 篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著) ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1
- 第12回：授業の研究2
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・30%

発表・レジュメ作成・・・20%

最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていただけらよと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【昼】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習 2 と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習 2 と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習 3 のみ受講の場合は教育実習 2 で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習 2 の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。

とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を持てること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書 /Textbooks

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦 (著), 竹網 誠一郎 (著) 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：なぜ教育心理学を学ぶのか 教育を心理学で考える
 - 第3回：記憶に関する理論 認知心理学の理論
 - 第4回：学習とは何か 教えて考えさせるということ
 - 第5回：学習の理論 学習心理学・発達心理学の理論
 - 第6回：子どもの発達を考える 発達心理学の理論
 - 第7回：学習意欲とは何か 学習意欲の構造論から
 - 第8回：子どもをいかに評価するか 学習意欲の観点から
 - 第9回：「学力」について考える 学習意欲と態度
 - 第10回：教育測定・評価（1） 評価の尺度について
 - 第11回：教育測定・評価（2） 教師の視点と生徒の視点
 - 第12回：学校カウンセリング スクールカウンセラーの役割
 - 第13回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
 - 第14回：学習の方法と意欲 学習方略の理論
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 20%
講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 50%

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簡易レポート・授業で扱うプリントについて、その都度指示をする。

事後学習：講義内で学んだ心理学的手法について学校現場の課題や実践と関連して考えるよう、都度指示を出す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉症スペクトラムについて
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
 P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
 P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：教育社会学の対象と方法
 第3回：子どもの社会化と家族・学校
 第4回：学校という組織
 第5回：学校社会と生徒文化
 第6回：学校社会と教師文化
 第7回：文化的再生産論にみる学校社会
 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
 第11回：いじめ現象の構造とその特徴
 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
 第13回：グローバリゼーションと教育
 第14回：情報化社会と教育
 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
- 教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研ぎ、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにとすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書 /Textbooks

- 「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造

第1回 「体罰」と人権

- 教育現場の体罰の実態。
- 体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。

第2回 「いじめ問題」と人権①

- 「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、教育内容の創造の道筋を考える。

第3回 「いじめ問題」と人権②

- 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
- いじめ認知調査「レジリエンス」（自己回復力）

第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」

- 「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
- ①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
- 「人権が尊重される授業づくり」「自尊心と学習理解力・人権意識の相関関係」
- 「全国学力テストの結果の分析と課題」

第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。

- 「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」

第6回 ③教育環境、雰囲気づくり

- 「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」

第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。

- 「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
- 「金子みすずの詩と東京大学入試問題」

第8回 個別の人権課題に学ぶ①

- 発達障害と子どもの人権

第9回 個別の人権課題に学ぶ②

- 「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業

第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ

- 一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
- ②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
- 「腑分け」の主人公

第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり（成立）について学ぶ

- 明治時代～大正時代～昭和時代
- 「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」

第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」

- 「竹田の子守唄と少女たちの叫び」

第13回 ○「結婚差別」（2人の若者の遺書）

- 「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。

第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」

- 「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」

第15回 ○同和問題解決への国の施策

- 「同和対策審議会・答申～同和対策事業特別措置法」
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」について
- 法律制定の経緯と意義。
- 部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎時間の「受講票」「定期的な小テスト（レポート）」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
- 「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
- 評価の割合は「テスト」（60%）、「受講票」（20%）、「小テスト（レポート）」（20%）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- この授業科目の単位（2単位、週90分授業）を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
- 基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
- テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
- 「小テスト、レポート（100字以内）」は、事前に予告します。
- 「レポート用紙」は、事前に配布します。
- 自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

人権教育論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- ステイーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能 (上) ・ (下) 』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【機械化の進行】
- 7回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 11回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 12回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 13回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 14回 古代世界の公共空間（1）【ギリシャ概説】
- 15回 古代世界の公共空間（2）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小小木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 実存の思想(6)【補足】
- 8回 確認テスト
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※第8回に予定している確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則として、このテストを受験していない者には単位を認めない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・グローバル化と民主主義
- 第2回 「デモス」と「クラティア」について
- 第3回 二つの民主主義伝統について
- 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
- 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・民主主義論
- 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
- 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布した講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）の当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書く留めた穴埋め箇所を中心に復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落したら、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング（１）【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング（２）【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成（実習）２【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢 IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナルリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長・SNA・投資】
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス・世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第12回 尹 在日外国人と多文化共生 【在日コリアン】【ニューカマー】
- 第13回 尹 在日外国人と多文化共生 【ヘイトスピーチ】【多文化共生】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従って学習を進める。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回 子ども食堂「もがるか」の運営と取り巻く人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第8回 フードバンク運動参加の学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回 グループワーク「会社を作る」を通してのガバナンスの理解	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念を考える		担当：三宅・伊野・申
第15回まとめ～ガバナンスに関してのグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、マスメディアに見られる「ガバナンス」に関する情報を収集しておき、自らのガバナンス概念を考えておく。事後学習は、授業で習ったそれぞれの「ガバナンス」概念・説をノートに整理しておく。最後のグループワークで活かす。

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 民主主義 フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、多彩な経歴を持つ人物である。後藤は入念な調査と分析に基づく、経費積算、計画立案を行うという科学的視点を重視し、「科学的政治家」などと評された。
本講義では、後藤の「科学」に着目し、彼が関わった行政・政治・外交の重要な局面において、その科学的視点がどのように活かされたのかを読み解く。またそれらの歴史的転換点において、後藤と関わった著名人の史料もあわせて読みながら、史料に基づいた歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年（復刻版）
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 鶴見祐輔『決定版 正伝・後藤新平』全8巻、藤原書店、2004～2007年
- この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 愛知県病院長兼医学校長時代：自由党異変【板垣退助】、健康警察医官設置之建白書
- 第3回 内務省衛生局長時代：『国家衛生原理』、万国衛生会議、【北里柴三郎】
- 第4回 内務省衛生局長時代（1）：「医師免許規則改正法案」、伝染病研究所設置問題【北里柴三郎、福沢諭吉】
- 第5回 内務省衛生局長時代（2）：『陸軍検疫部報告書』【児玉源太郎】
- 第6回 内務省衛生局長時代（3）：「台湾阿片二関スル意見」【伊藤博文】【桂太郎】
- 第7回 台湾民政長官時代：台湾公債事業【児玉源太郎】【新渡戸稲造】
- 第8回 南満州鉄道総裁時代：「満州経営作梗概」、【原敬】
- 第9回 国務大臣時代（1）：【桂太郎】【西園寺公望】【山本権兵衛】
- 第10回 国務大臣時代（2）：【水野錬太郎】、シベリア出兵
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米遍歴時代：【新渡戸稲造】【原敬】
- 第12回 東京市長時代：「大調査機関設置構想」【原敬】、東京市政調査会【安田善次郎】
- 第13回 在野時代：対ソツフェ交渉
- 第14回 国務大臣時代（3）：関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

※【 】の人名は、後藤新平以外に取り上げる史料の作成者

歴史の読み方I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)と平常点(授業への参加態度、コメント等で20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業の終わりに、次回使用する史料を配付するので、よく読んで予習をしておくこと。また授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー。
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
- 第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】
- 第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】
- 第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

- 第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
- 第9回 イギリスとEUの関係について
- 第10回 キャメロン首相と国民投票
- 第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか
- 第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か
- 第13回 トランプ候補が勝利した理由
- 第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか
- 第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また講義の場合には、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。実技のときには、その内容を無理のない程度で、自宅で試してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

国際経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基礎理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引—国際金融&国際投資—）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになろう。

<本講義の到達目標>

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ—国際金融の視点—から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】 【グローバル・インバランス】 【トランプショック】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
【英国のEU離脱】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】
【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】 【アベノミクス】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済 【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
【経常収支黒字】 【資本収支赤字】 【外貨準備率】 【世界経済の不均衡問題】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度 : GATT&WTO、及びFTA (EPA) TPP
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点 : 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 定期試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した記事 (雑誌記事、新聞記事etc) を収集して、授業のさらなる理解に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキストと一緒に事前・事後学習に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 グローバル・インバランス BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 米ドル ユーロ 円高・円安
経常収支 資本収支 外貨準備 アベノミクス 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放 対外
債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論IIは、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（動向）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。

なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

「国際収支の諸概念」

< 国際経済論IIの基本的視点 > - 授業の流れ -

* 授業展開における基本視点 ➡ 下記のように、「通貨」の視点からも国際経済の現状&将来を分析していきます。

1. 世界の三大通貨 ➡ 基軸通貨（国際通貨）：「米ドル」（\$）、欧州連合（EU）における統一通貨：「ユーロ」（€）、日本通貨：「円」（¥） 英国通貨：「ポンド」（£）
2. その他の注目通貨 ➡ 中国通貨：「人民元」、スイスの通貨：「スイスフラン」etc

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）：世界経済の不均衡問題 …… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】 【グローバル・インバランス】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）：資本輸出国日本 …… 【経常収支の黒字】 【資本収支の赤字：
資本輸出】 【外貨準備高】 【債権大国：日本】 【对外投资】 【対外純資産】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 …… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 & 現状 …… 【金本位制度】 【固定相場制度】 【変動相場制度】 【管理通貨制度】
IMF 体制 【基軸通貨：米ドル】 【国際通貨制度の三位一体説】 【トリフィンのジレンマ】
【最適通貨制度】 【共通通貨：ユーロ】 【複数通貨制度】 【SDR】
- 第7回 外国為替取引と為替レート …… 【邦貨（円）建て】 【外貨（ドル）建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 …… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】 【資本規制】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 …… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ） …… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ） …… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 …… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】
【為替変動】 【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析 …… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動 …… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 …… 80%
- (2) 日常の授業への取り組み …… 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した資料【雑誌記事、新聞記事etc】を収集して、授業で学んだ知識を深めてください。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキスト & ノートと共に事前・事後の学習に役立てて下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3) 日本経済新聞を読めるようになって下さい。

キーワード /Keywords

国際収支の均衡 経常収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 財政収支赤字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 内需・外需 邦貨（円）建レート 外貨（ドル）建レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外国為替市場 市場レート 平価 為替介入 外国為替資金特別会計 FB（政府短期証券） 不胎化介入 非不胎化介入
国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） MF 体制 国際通貨制度の三位一体説 トリフィンジレンマ 最適通貨制度
複数通貨制度 共通通貨：ユーロ SDR グローバル・インバランス 国際資本移動 マンデル・フレミング理論

教職論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 道徳教育実践の主体としての教師 - 道徳は教えられるか?
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達之糧」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、期末試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかがりわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい教育の方法と技術 2012 篠原 正典(著), 宮寺 晃夫(著) ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1
- 第12回：授業の研究2
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていただきたいと思います。

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時に履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理、プレゼンテーション方法の説明
- 2回 子どもたちから学び、一緒に成長できる教師であるために(実践報告とグループ討論)
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのロールプレイ実習
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
- 7回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題(グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習(中・高)【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となしてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション、学校の意義、教育の意義【心理学】【学際性】
2回	幼児、児童の心身の発達と教育【表象世界】【しつけ】【不適応】
3回	児童期の発達【学級崩壊】
4回	学習過程【条件づけ】、【強化】、【般化】、【モデリング】、【洞察等】
5回	動機づけ【内発的動機づけ、帰属】
6回	家庭における教育【育児】【しつけ】
7回	家庭における教育【教育への動機】
8回	学校組織と教師【組織としての学校の特殊性】【職業としての教師の特殊性】
9回	教室内過程【教師生徒との関係】
10回	教室内過程【生徒間関係】
11回	教育評価【測定】
12回	発達の個人差と障害児【障害理解】
13回	発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
14回	現代の教育問題について
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは3～4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前の予習としては、教育心理学に関する内容を特定のテーマに偏ること無く、図書館等で参考になる本を自主的に読むなどしておくことが望ましい。講義後の復習としては、学修したキーワードに関して深く掘り下げるための本を読んでほしい。その際、教育心理学のみならず、発達心理学、社会心理学、学習心理学などの本も参考になるので幅広い分野の本を手にとって欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
- 教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研ぎ、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにとすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書 /Textbooks

- 「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造

第1回 「体罰」と人権

- 教育現場の体罰の実態。
- 体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。

第2回 「いじめ問題」と人権①

- 「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、教育内容の創造の道筋を考える。

第3回 「いじめ問題」と人権②

- 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
- いじめ認知調査「レジリエンス」（自己回復力）

第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」

- 「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
- ①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
- 「人権が尊重される授業づくり」「自尊心と学習理解力・人権意識の相関関係」
- 「全国学力テストの結果の分析と課題」

第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。

- 「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」

第6回 ③教育環境、雰囲気づくり

- 「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」

第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。

- 「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
- 「金子みすずの詩と東京大学入試問題」

第8回 個別の人権課題に学ぶ①

- 発達障害と子どもの人権

第9回 個別の人権課題に学ぶ②

- 「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業

第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ

- 一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
- ②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
- 「腑分け」の主人公

第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり（成立）について学ぶ

- 明治時代～大正時代～昭和時代
- 「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」

第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」

- 「竹田の子守唄と少女たちの叫び」

第13回 ○「結婚差別」（2人の若者の遺書）

- 「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。

第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」

- 「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」

第15回 ○同和問題解決への国の施策

- 「同和対策審議会・答申～同和対策事業特別措置法」
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」について
- 法律制定の経緯と意義。
- 部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎時間の「受講票」「定期的な小テスト（レポート）」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
- 「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
- 評価の割合は「テスト」（60%）、「受講票」（20%）、「小テスト（レポート）」（20%）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- この授業科目の単位（2単位、週90分授業）を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
- 基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
- テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
- 「小テスト、レポート（100字以内）」は、事前に予告します。
- 「レポート用紙」は、事前に配布します。
- 自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人権教育論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法等を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
 事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords